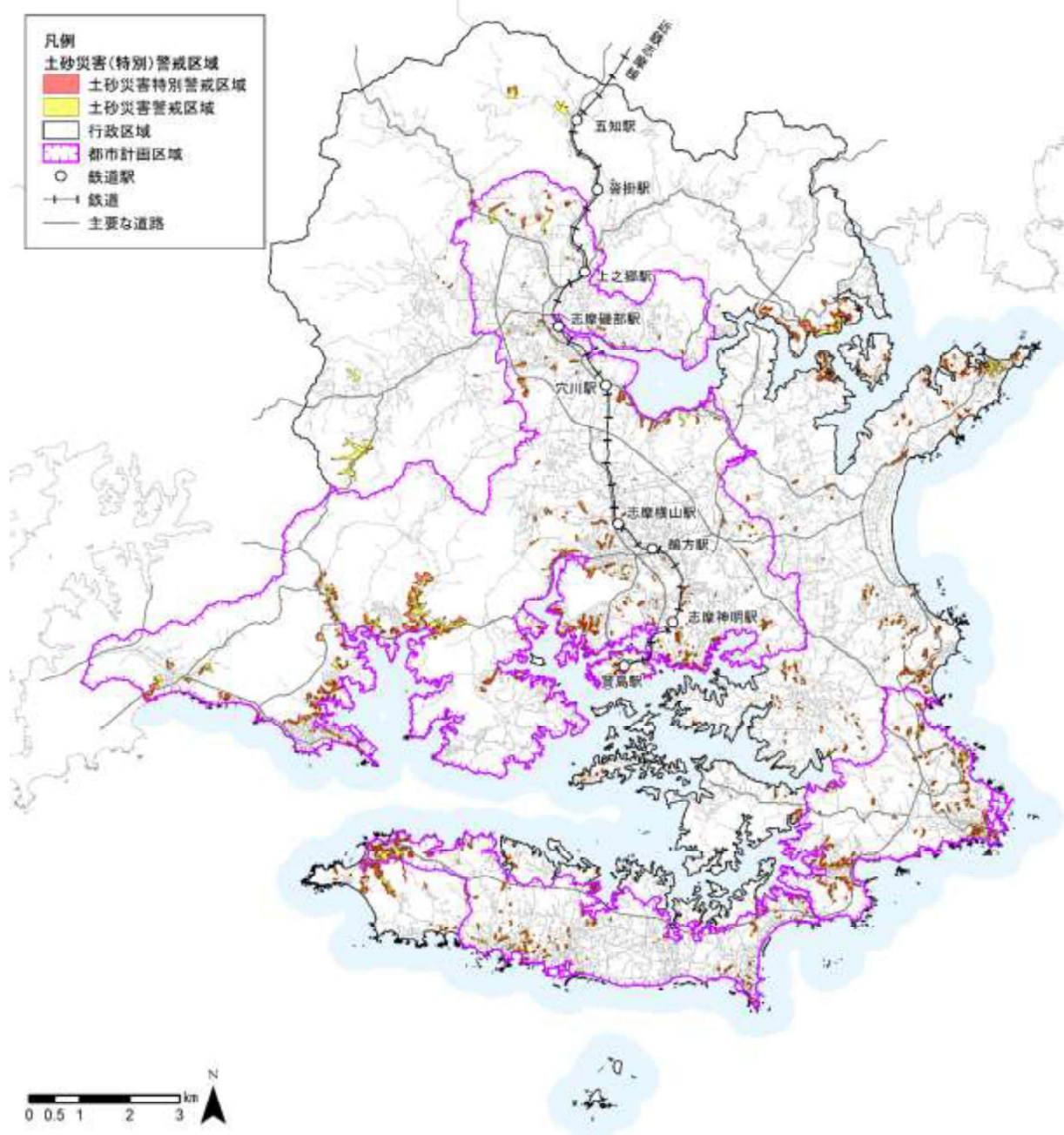


1-8. 災害

○土砂災害(特別)警戒区域

・志摩市では、山地・丘陵地と海岸部が近接する地形特性から、市域全体に土砂災害警戒区域が広く分布し、集落や市街地と近接した形で土砂災害リスクを抱えている。



※急傾斜地の崩壊、土石流の土砂災害(特別)警戒区域を表示

図 土砂災害(特別)警戒区域(三重県土砂災害情報提供システム) 令和6(2024)年

○洪水浸水想定区域

- ・志摩市の洪水浸水想定区域(計画規模)は、河川沿いの低地を中心に限定的に分布し、浸水深は比較的浅い0.5m未満、0.5～3.0mの区域が大半を占める一方、市街地と近接する箇所も見られる。
- ・洪水浸水想定区域(想定最大規模)では、河川沿いを中心に浸水範囲及び浸水深が拡大し、市街地や都市計画区域内においても、志摩磯部駅周辺で3.0～5.0m程度の浸水が想定される区域が確認される。

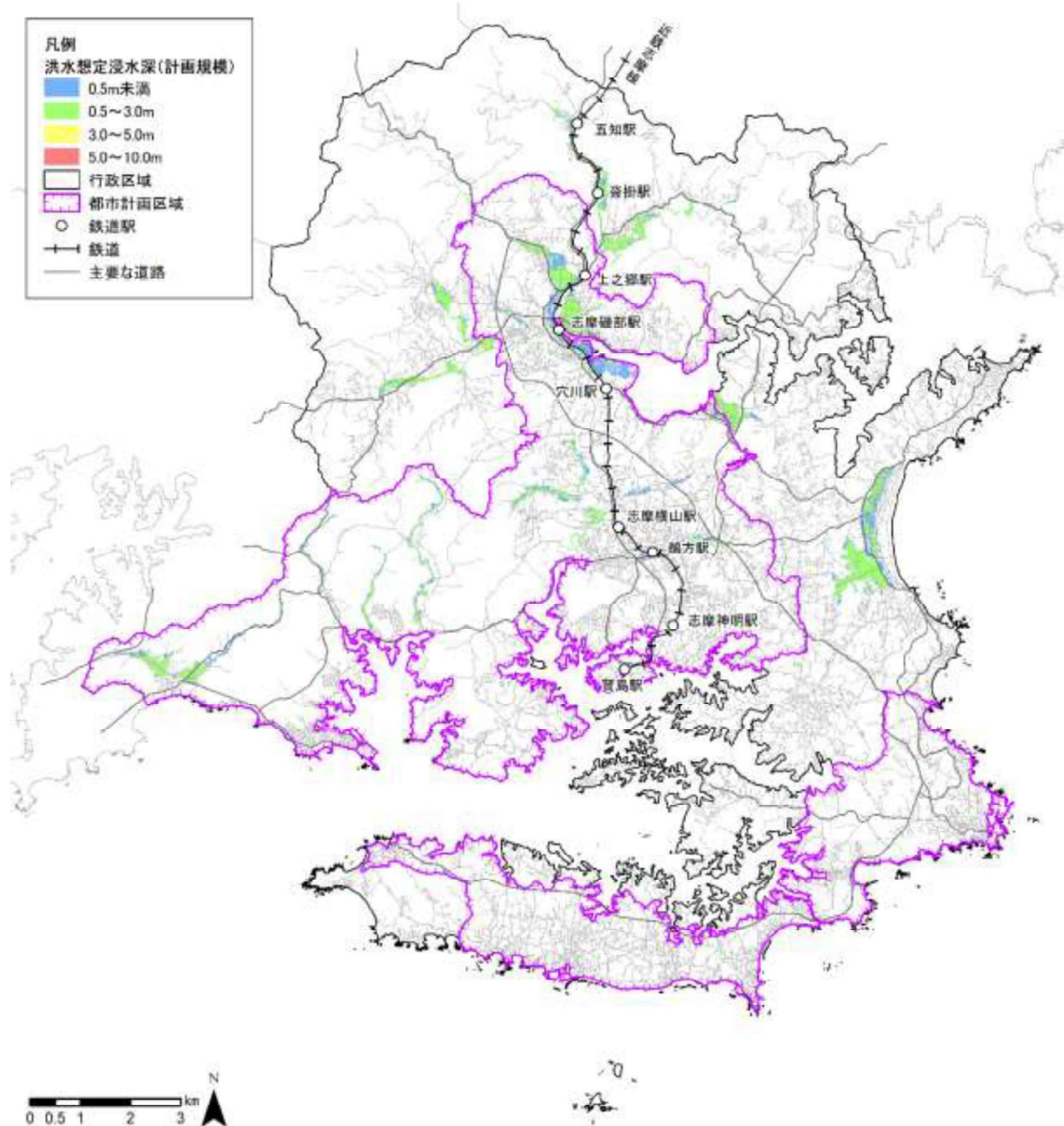


図 洪水浸水想定区域 計画規模(国土数値情報) 令和6(2024)年度

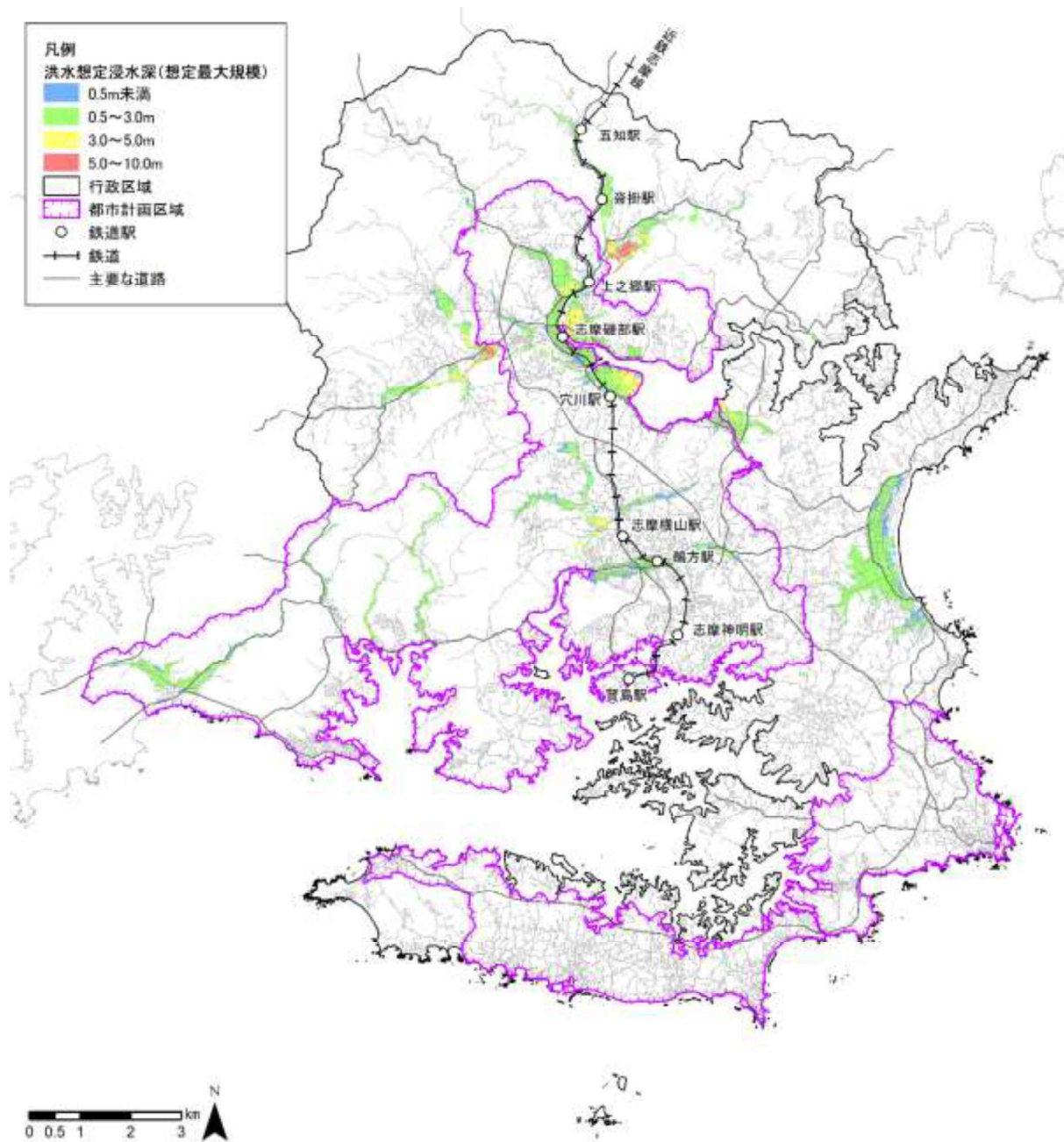


図 洪水浸水想定区域 想定最大規模(国土数値情報) 令和 6(2024)年度

○洪水浸水継続時間

・洪水浸水継続時間は、河川沿いの低地や市街地周辺を中心に分布している。多くの区域では12時間未満から24時間程度の浸水継続が想定されている一方で、国府・甲賀では、24～72時間、72～168時間に及ぶ長時間浸水が想定される区域も見られる。

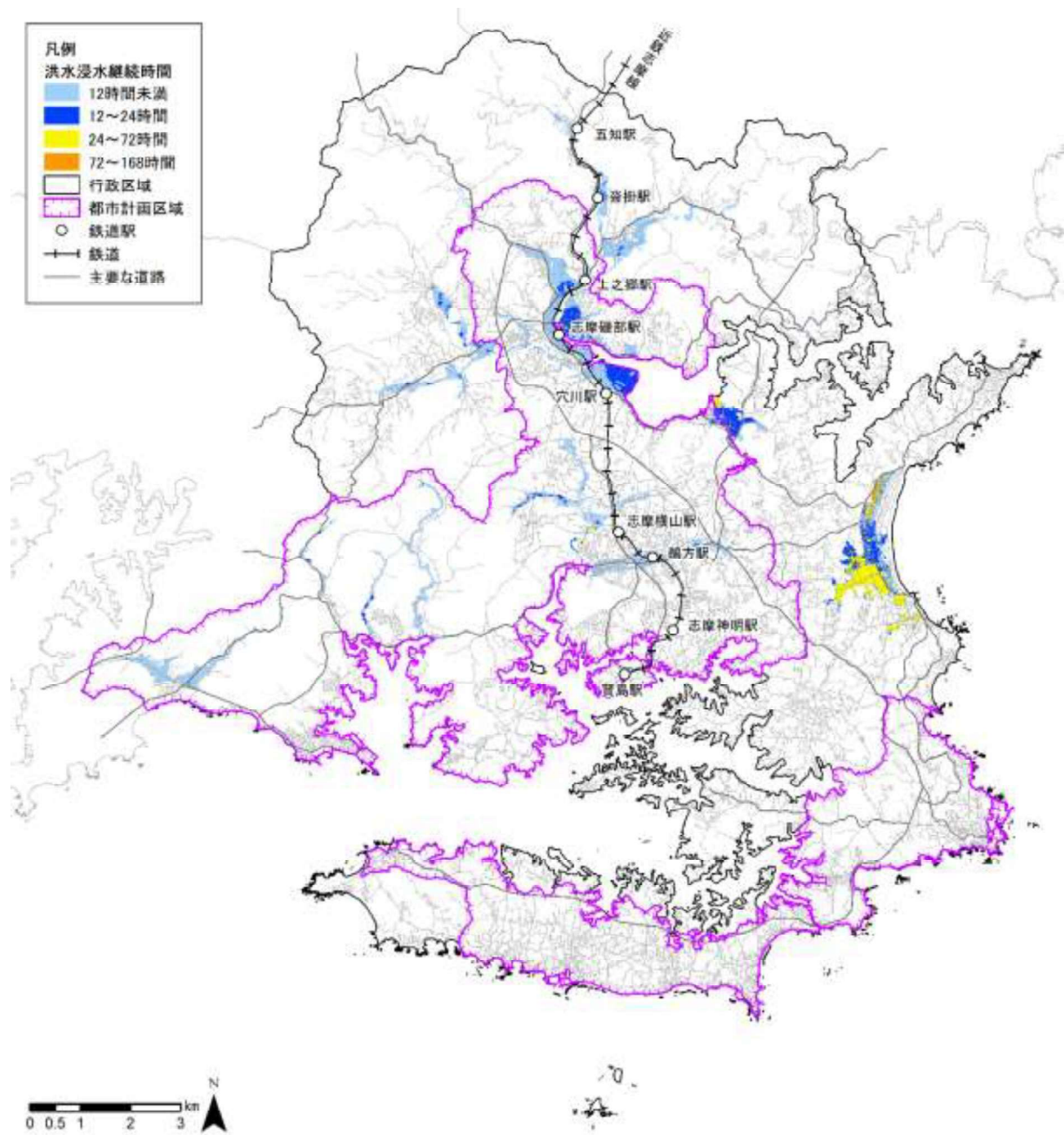


図 洪水浸水継続時間(国土数値情報) 令和6(2024)年度

○家屋倒壊等氾濫想定区域

・志摩市では、家屋倒壊等氾濫想定区域は河川沿いに限定的に分布し、氾濫流や河岸侵食により、局所的に家屋倒壊の危険性が想定される区間が見られる。

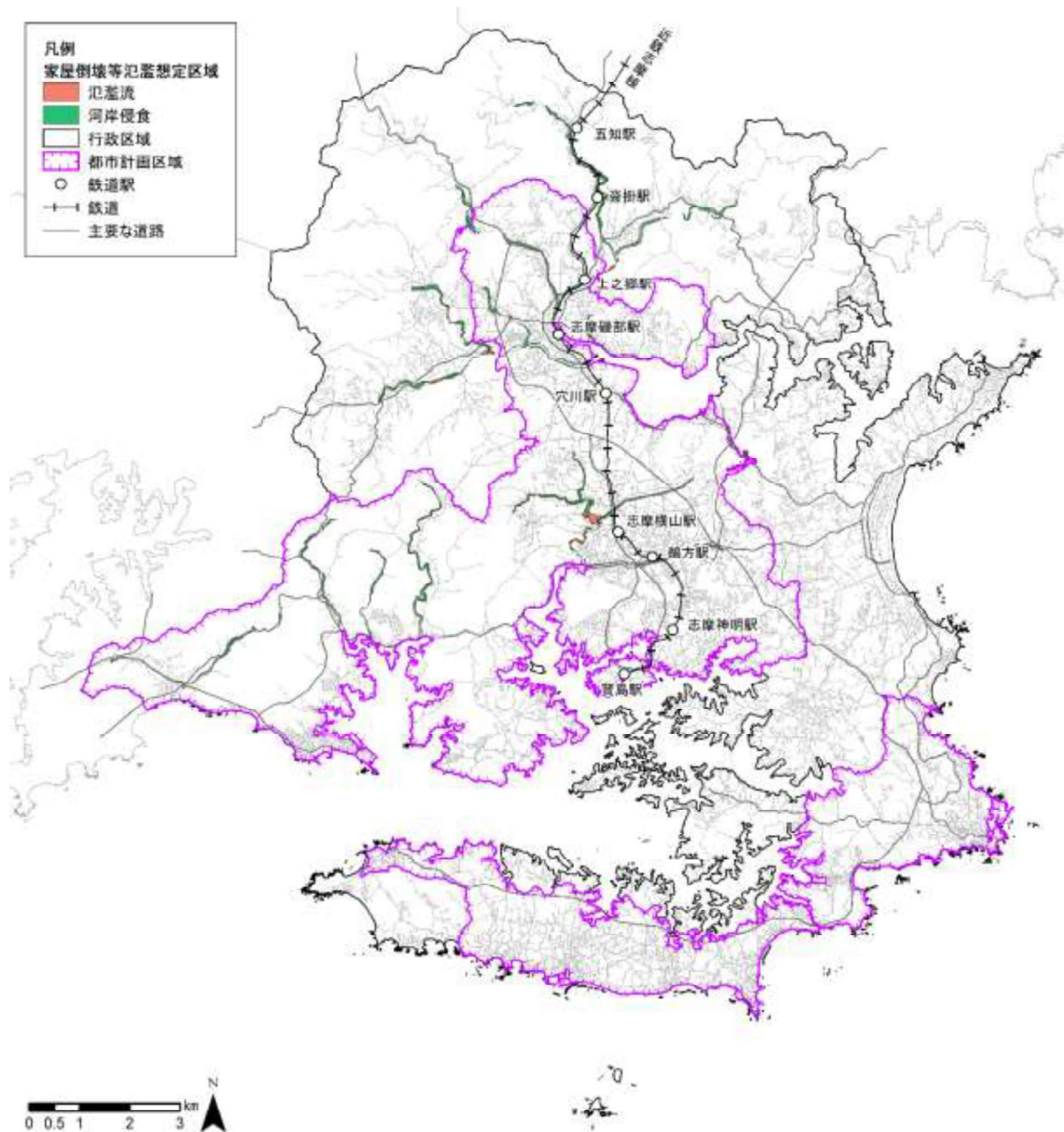


図 家屋倒壊等氾濫想定区域(国土数値情報) 令和 6(2024)年度

○津波浸水想定区域

・津波想定浸水深は、沿岸部や湾奥、河口低地を中心に広く分布しており、都市計画区域内では 0.3～1.0m 程度の浸水が想定される区域が多い一方、国府・甲賀やリアス海岸の低地では 2～5m、局所的には 5～10m、さらには 10m以上の深い浸水が想定される区域も見られる。

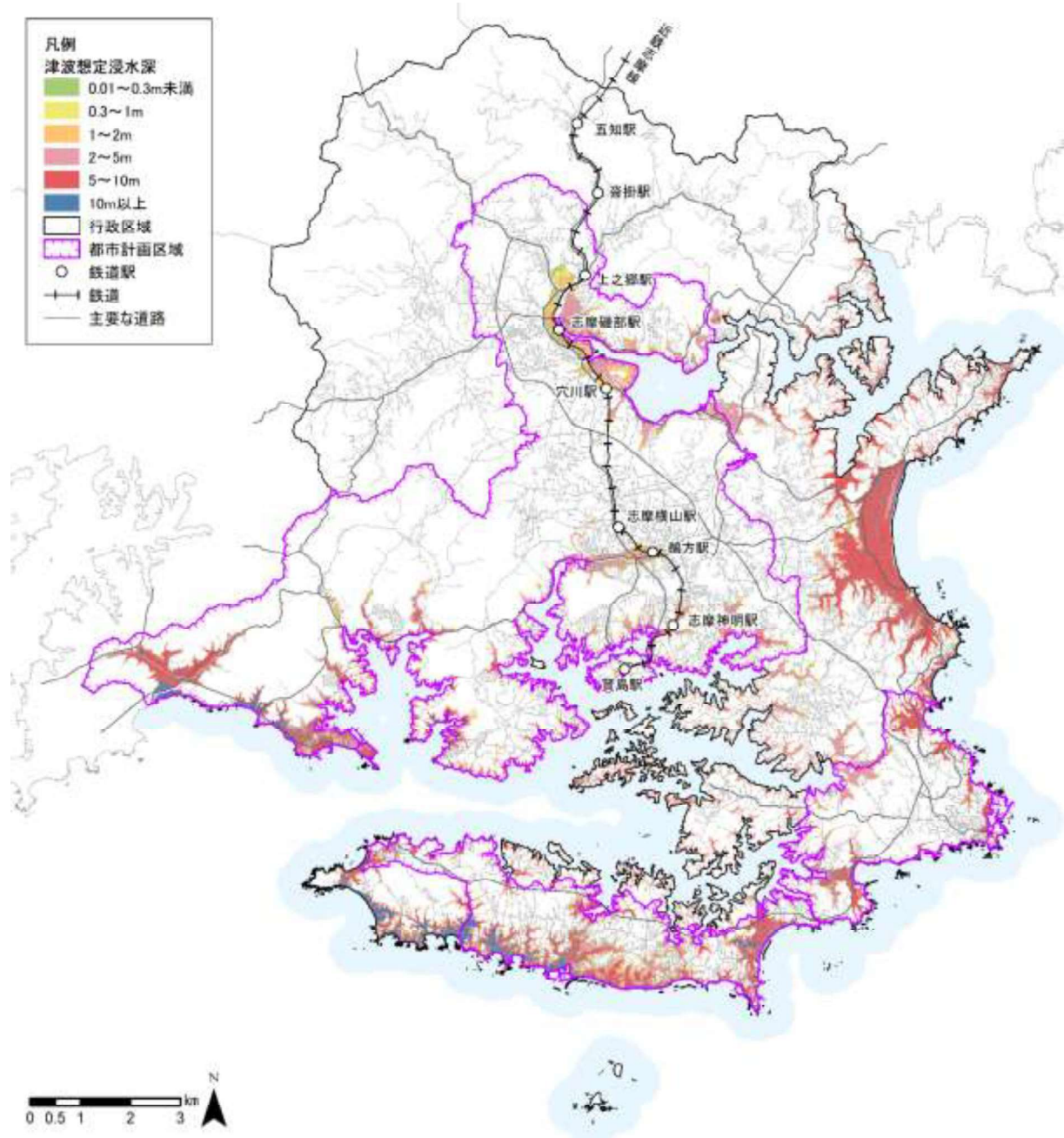


図 津波浸水想定区域(南海トラフ)(平成25年度地震被害想定調査(三重県)) 平成 25(2013)年
 ※あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震を想定

○震度分布

・地震の震度分布を見ると、市域全体の多くで震度 6 強～7 が想定されている。

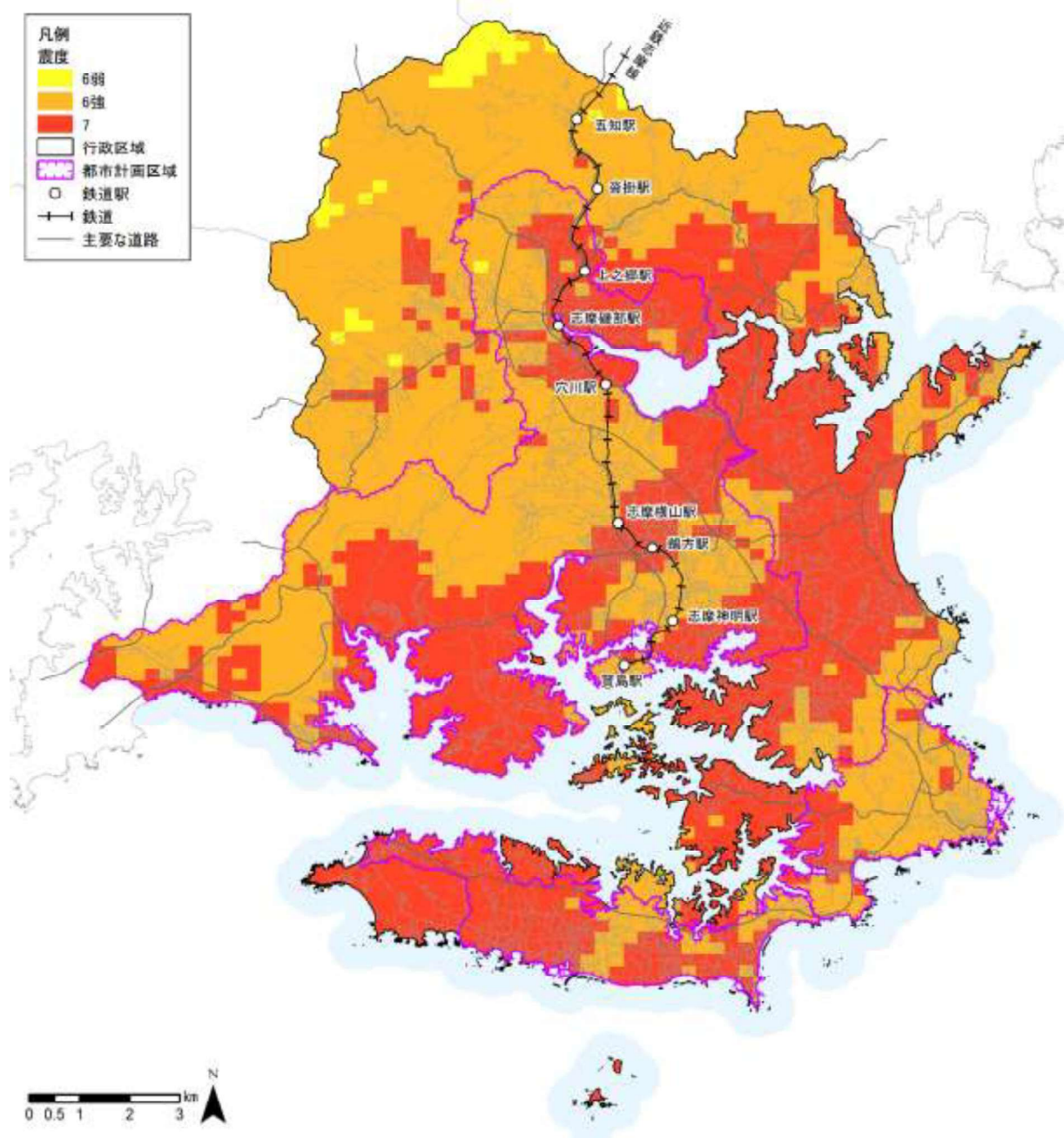


図 震度分布図(南海トラフ)(平成25年度地震被害想定調査(三重県)) 平成 26(2014)年

※あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震を想定

○液状化危険度

・液状化危険度分布を見ると、市域全体では「低い」、「極めて低い」、「液状化対象層なし・計算対象外」区域が大半を占める一方、志摩磯部駅周辺・鵜方駅周辺・志摩神明駅周辺・国府・甲賀などの低地部を中心に、「高い」または「極めて高い」液状化危険度が想定される区域が点在している。

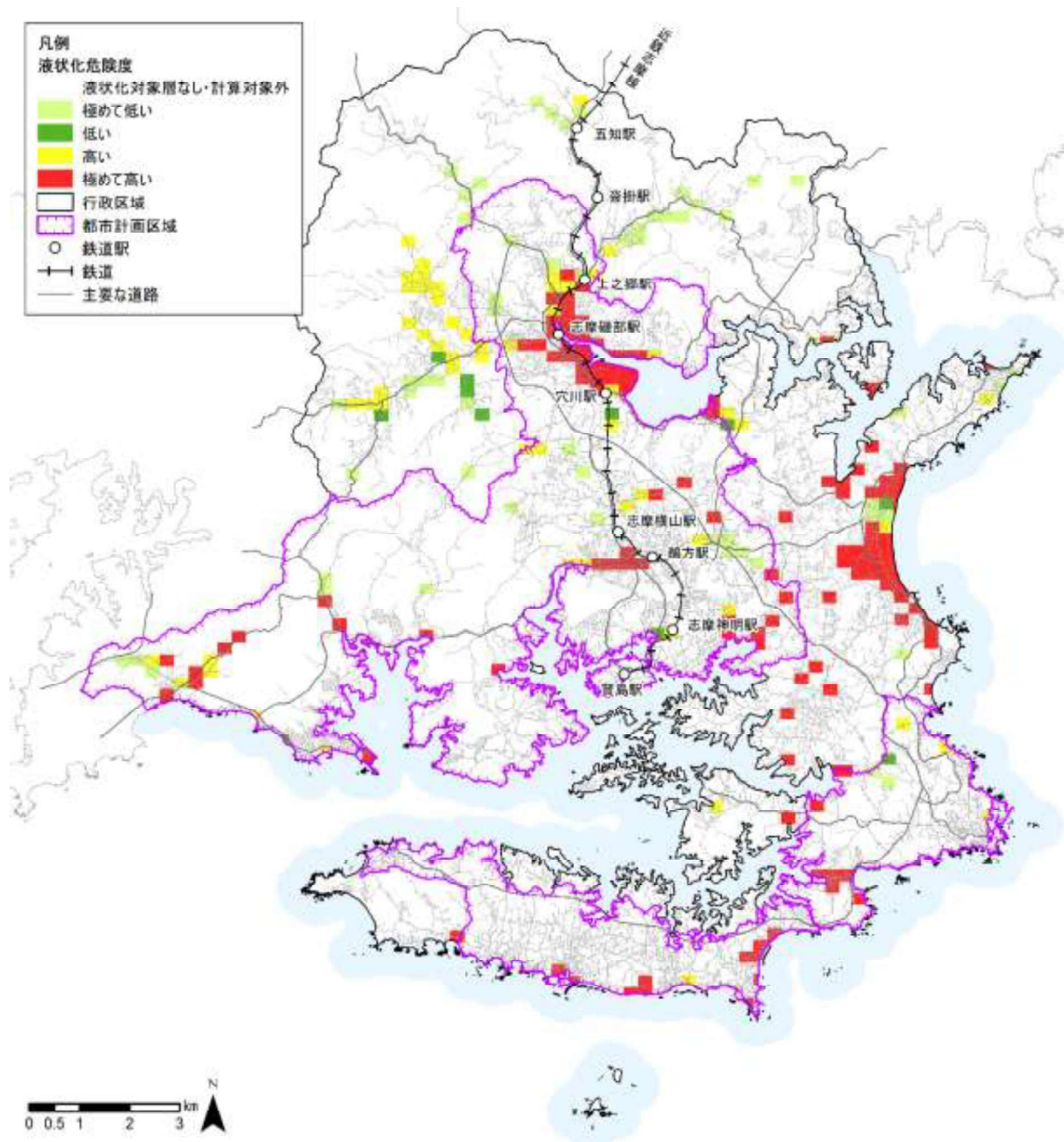


図 液状化危険度分布図(南海トラフ)(平成25年度地震被害想定調査(三重県)) 平成 26(2014)年
 ※あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震を想定

○避難所

・志摩市には、市指定避難所 113 施設、福祉避難所 5 施設、津波避難施設 10 施設が立地している。避難施設は市域全体に配置されているが、都市計画区域内、とくに鵜方駅・志摩磯部駅・志摩神明駅周辺に多く分布している。

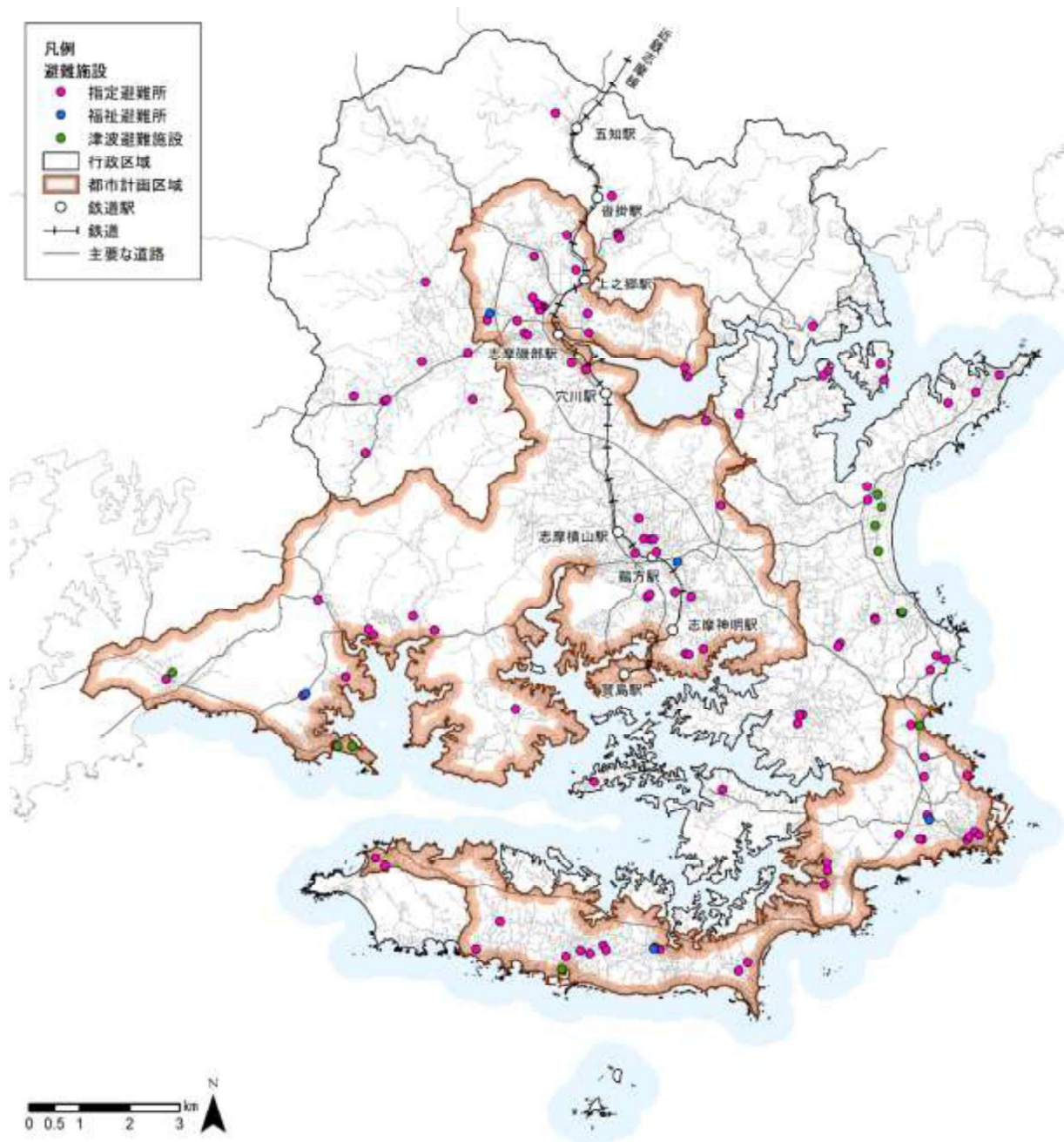


図 志摩市避難所(地域防災計画) 令和 7(2025)年度

○災害履歴

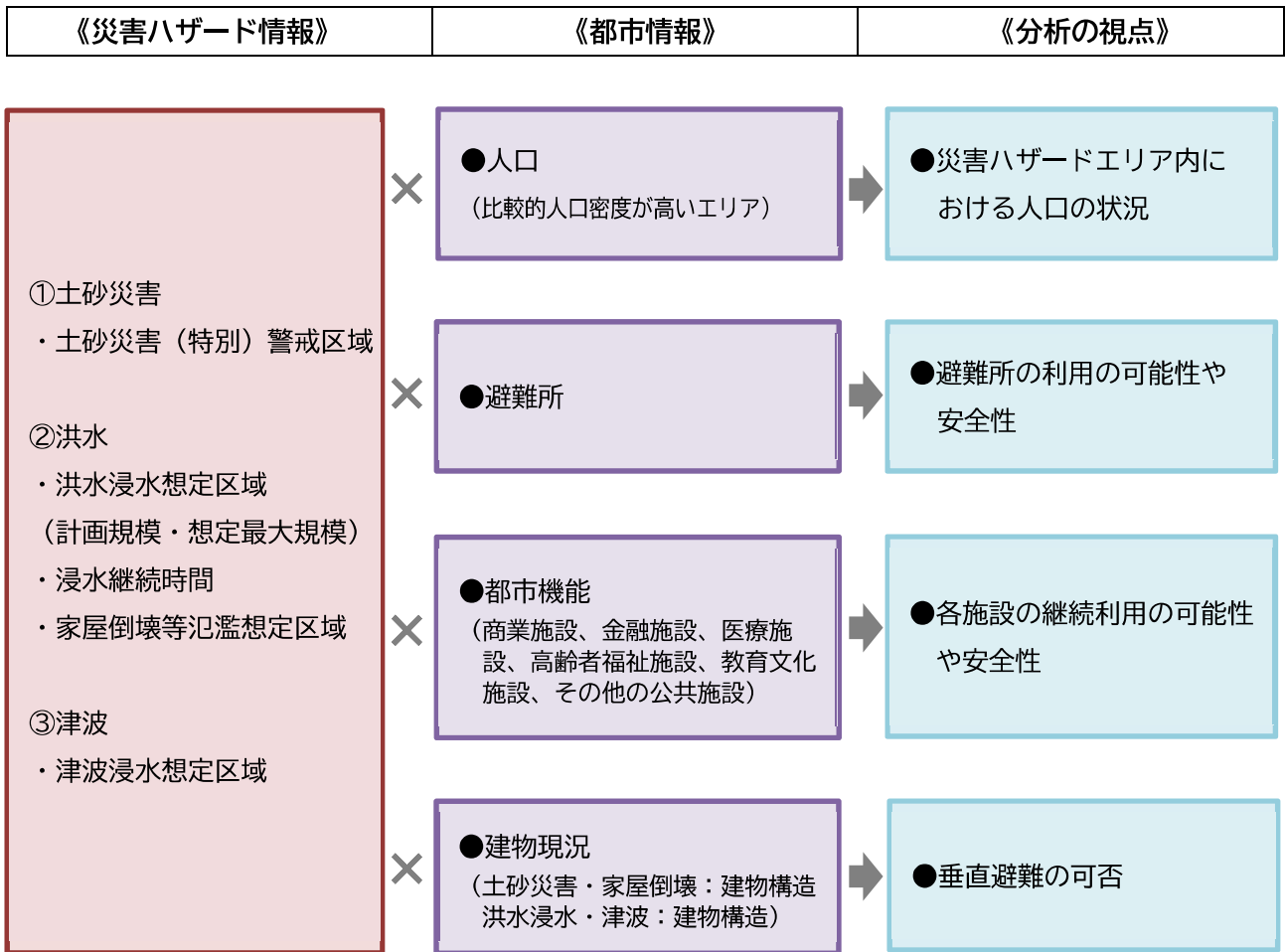
・過去の志摩市の災害履歴を見ると、台風や突風、強風、大雨といった風水害が継続的に発生しており、被害の多くは屋根・外壁・雨樋等の一部損傷や床上・床下浸水など「一部損壊」「半壊に至らない」程度となっている。

表 市における風水害一覧(罹災証明発行データ)

年度	災害名	被害内容の概要	罹災程度
H30	台風 12 号	強風による屋根・車庫屋根・軒先などの一部損傷	「一部損壊」が 3 件
	台風 21 号	屋根、外壁、雨戸、雨樋、天井等の一部損傷が中心	「半壊に至らない」が 17 件
	台風 24 号	屋根・外壁・雨戸・雨樋・天井・付属設備の一部損傷が広範に発生	「半壊に至らない」が 18 件
R1	台風 10 号	強風による屋根防水シートの損傷	「半壊に至らない」が 1 件
	台風 19 号	住宅の床上・床下浸水、屋根・外壁・天井の雨漏りや一部損傷が中心	「半壊に至らない」が 12 件
	集中豪雨	住宅 1 階の床上浸水やバルコニー等からの雨漏り	「半壊に至らない」が 2 件
	竜巻	屋根・雨樋の一部損傷	「半壊に至らない」が 2 件
R2	強風	屋根瓦の落下や雨漏りに伴う天井・畳の損傷	「準半壊に至らない(一部損壊)」が 1 件
	大雨警報	屋根の一部損傷	「準半壊に至らない(一部損壊)」が 1 件
R3	突風	屋根・外壁・下屋・雨樋・窓ガラス・戸袋・車庫・ソーラーパネル等の一部損傷、雨漏りや畳汚損が発生	「準半壊に至らない(一部損壊)」が 23 件
		屋根・外壁・天井・床等に及ぶ比較的大きな損傷	「準半壊」が 1 件
R4	大雨	建物下・基礎部の土砂崩れが発生	「準半壊に至らない(一部損壊)」が 1 件
	台風 15 号	床上・床下浸水、防水シート剥がれ、天井の雨漏り、設備(エアコン室外機・浄化槽)被害が発生	「準半壊に至らない(一部損壊)」が 6 件

○災害リスクの重ね合わせ

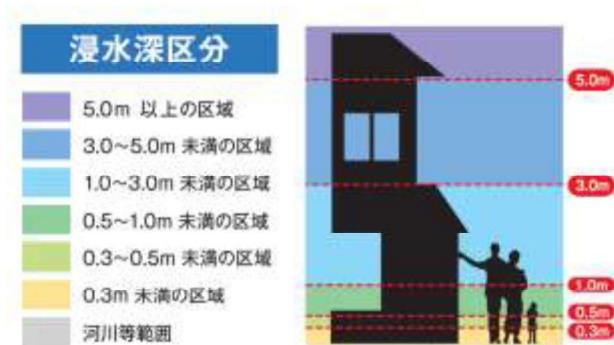
・災害ハザード情報と都市情報の重ね合わせ分析を行い、災害リスクの見える化を図るとともにリスクの分析を行った。



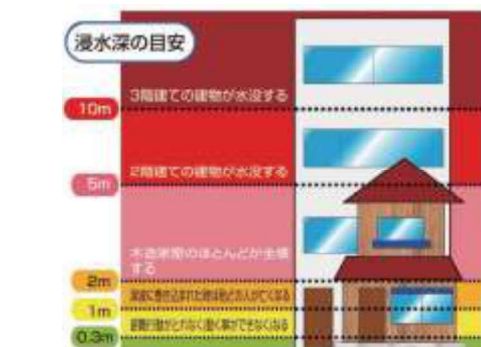
※比較的人口密度の高いエリア…人口密度 15 人/ha～40 人/ha 未満

※垂直避難の可否…2 階建てが浸水する浸水深(3.0m 以上)を超えているか否か

【浸水深の目安】



出典：志摩市洪水ハザードマップ(令和 6 年 2 月)



出典：志摩市津波ハザードマップ(令和 3 年 3 月)

○土砂災害警戒区域とメッシュ人口密度の重ね合わせ

- ・人口密度(R2)では、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満の区域の一部が、土砂災害(特別)警戒区域と重なって分布している。将来人口密度(R32)においては、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満のエリアが縮小する一方で、志摩横山駅・鵜方駅周辺の一部で土砂災害(特別)警戒区域となっている。

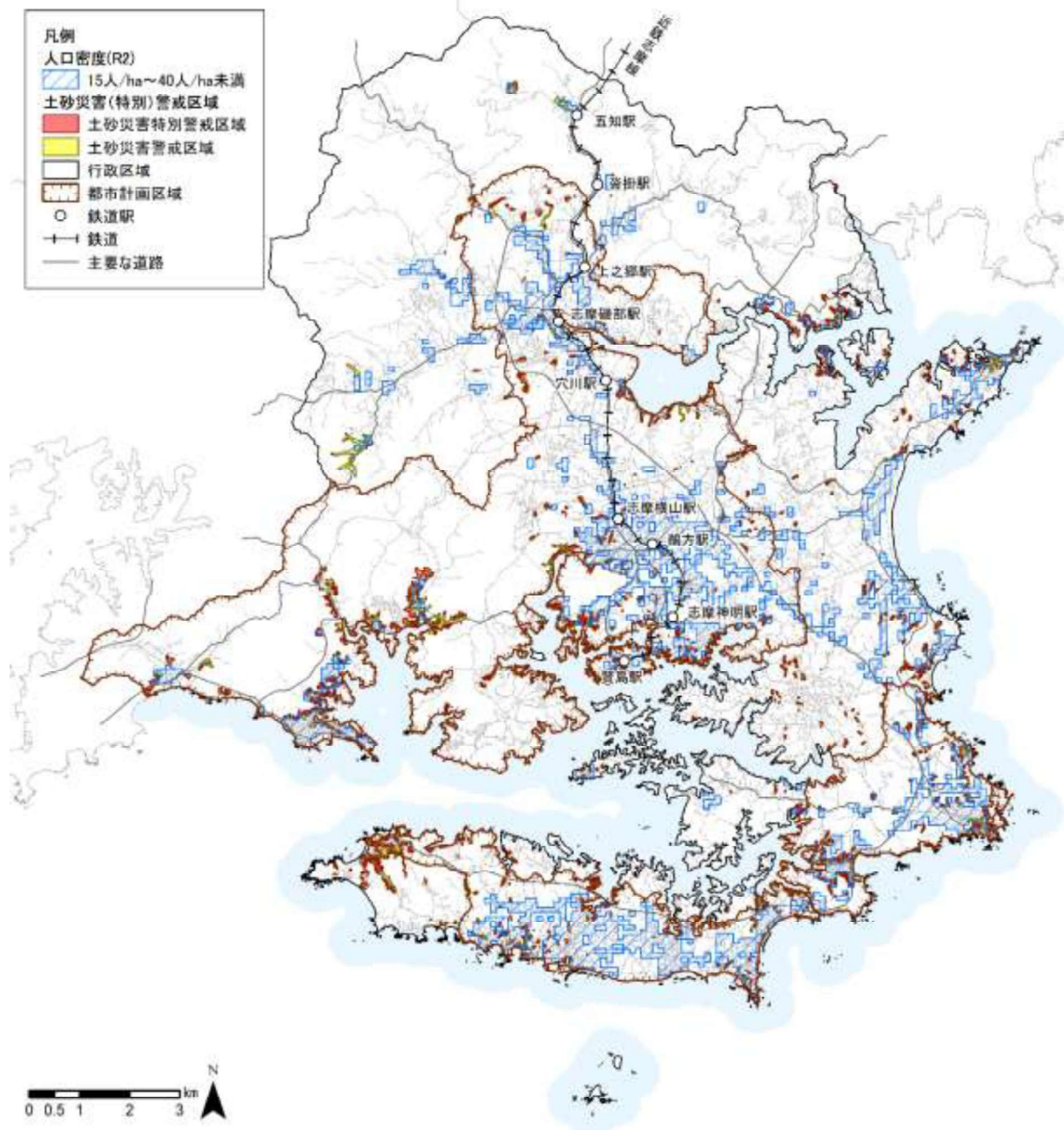


図 土砂災害警戒区域(三重県土砂災害情報提供システム) 令和 6(2024)年、人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100m メッシュ 令和 2(2020)年

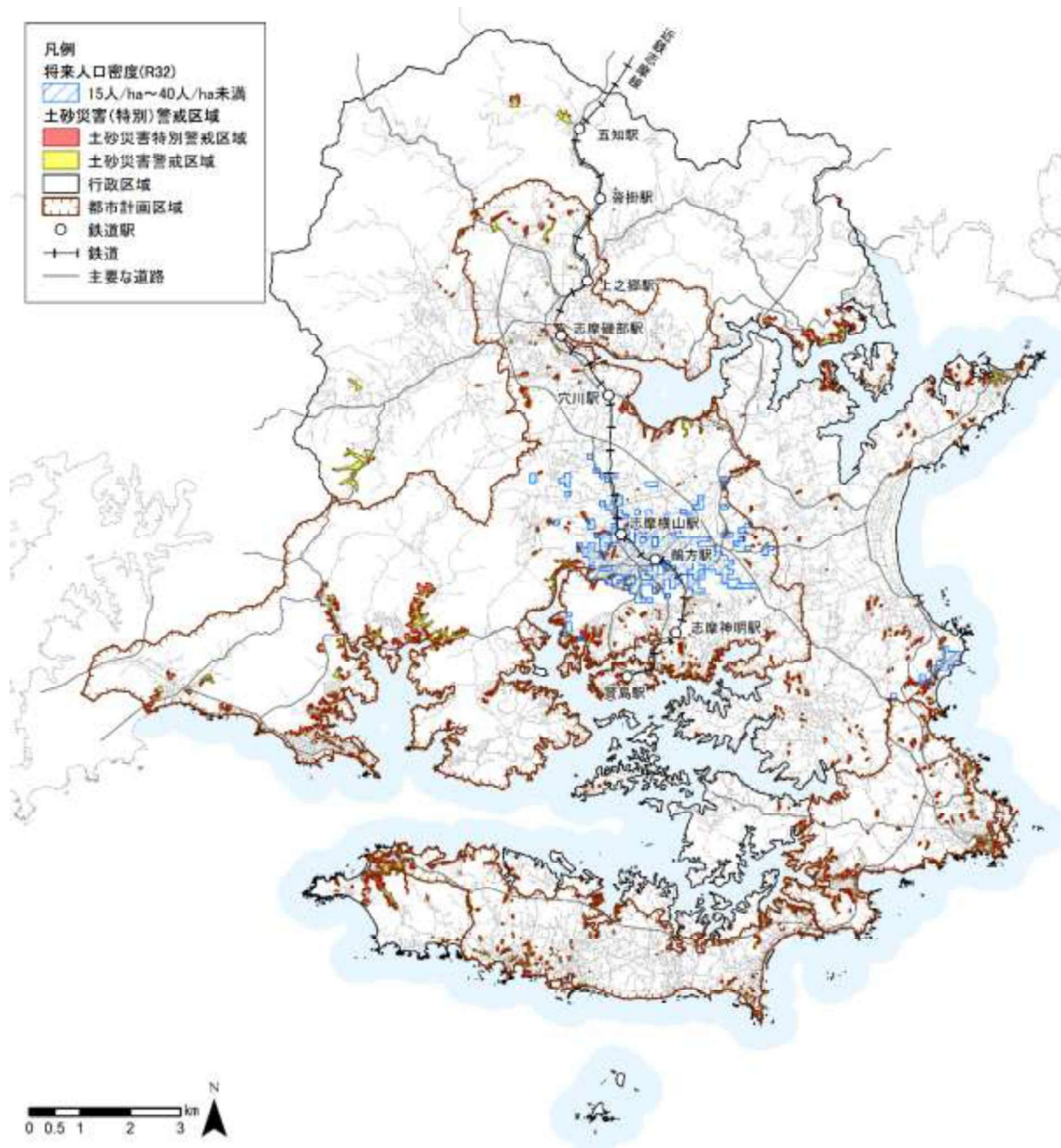


図 土砂災害警戒区域(三重県土砂災害情報提供システム) 令和 6(2024)年、
将来人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100m メッシュ 令和 32(2050)年

○洪水浸水想定区域とメッシュ人口密度の重ね合わせ

・人口密度(R2)では、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満の区域の一部(志摩磯部駅周辺・国府・甲賀など)で、洪水想定浸水深 0.5m 未満～3.0m の区域と重なって分布している。将来人口密度(R32)においては、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満のエリアが縮小し、洪水想定浸水区域との重なりは大きくはみられない。

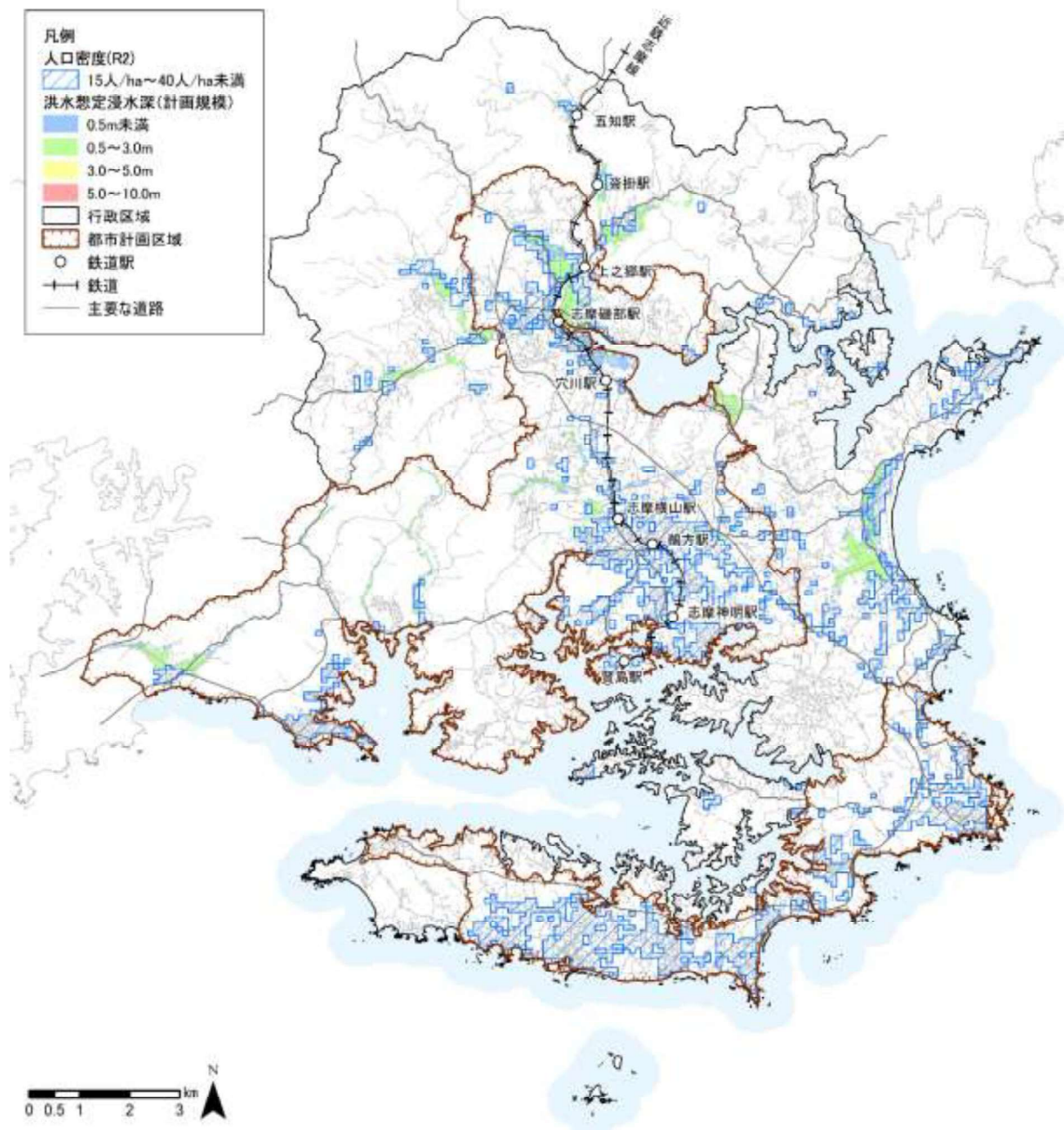


図 洪水浸水想定区域(計画規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、人口密度 15 人/ha～40 人/ha 未満 100m メッシュ 令和 2(2020)年

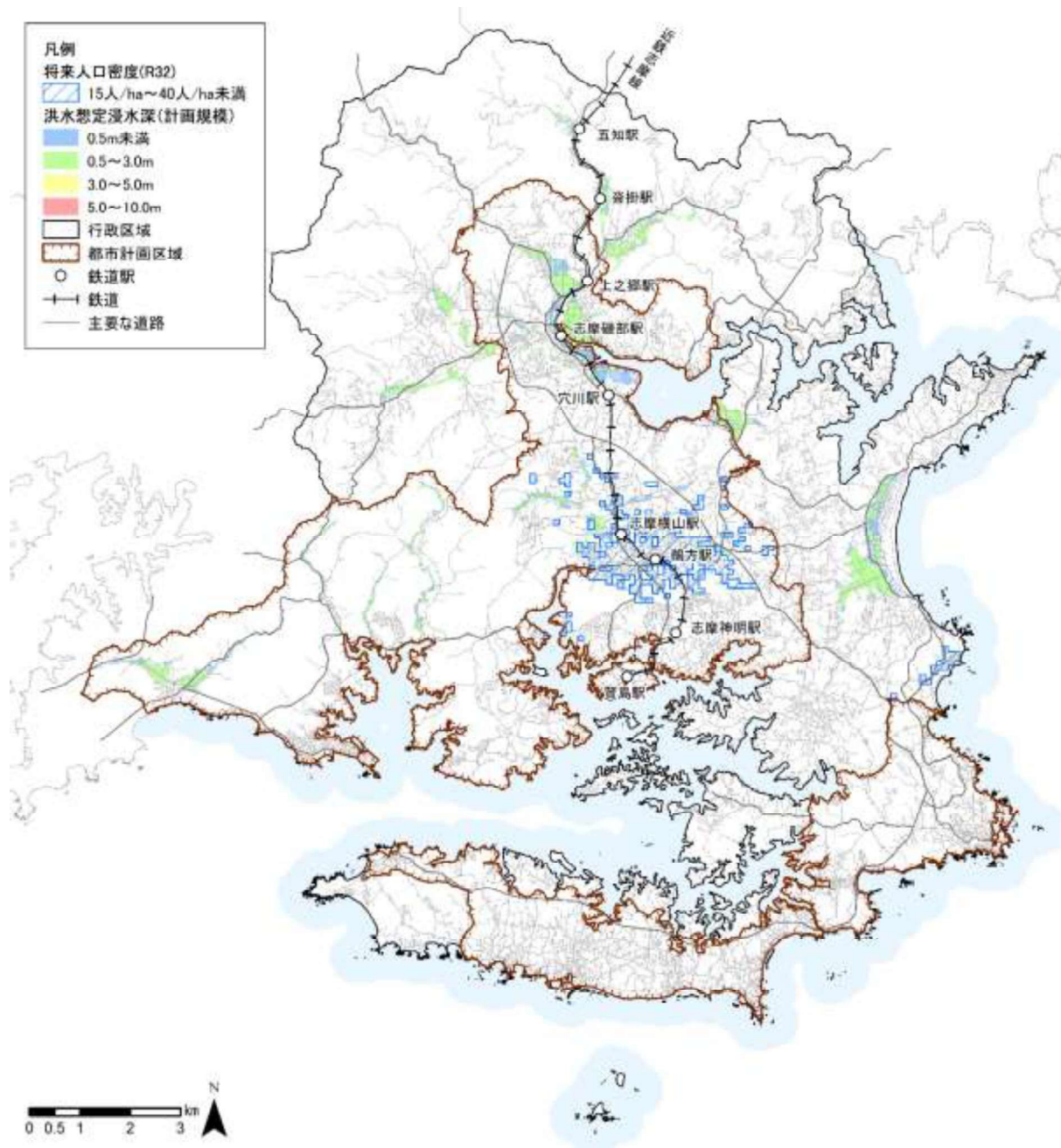


図 洪水浸水想定区域(計画規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
将来人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100m ヲツシユ 令和 32(2050)年

・人口密度(R2)では、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満の区域の一部(志摩磯部駅周辺・鵜方駅・穴川駅周辺・国府・甲賀など)において、洪水想定浸水深 0.5m～3.0m または 3.0m 以上～5.0m 未満の区域と重なって分布している。将来人口密度(R32)においては、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満のエリアが縮小する一方で、鵜方駅周辺の一部では引き続き洪水想定浸水深 0.5m～3.0m の区域と重なっている。

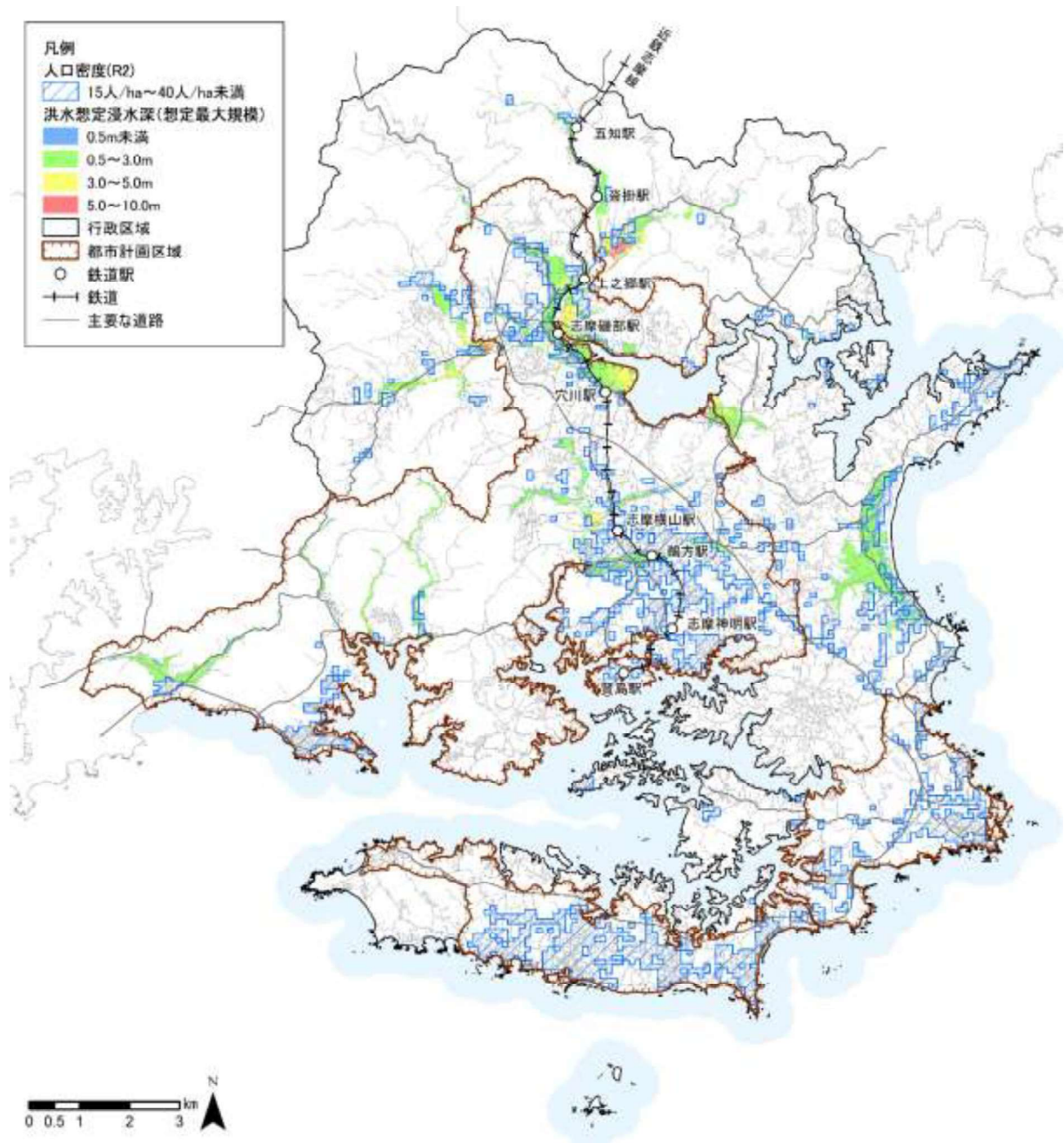


図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、人口密度 15 人/ha～40 人/ha 未満 100m メッシュ 令和 2(2020)年

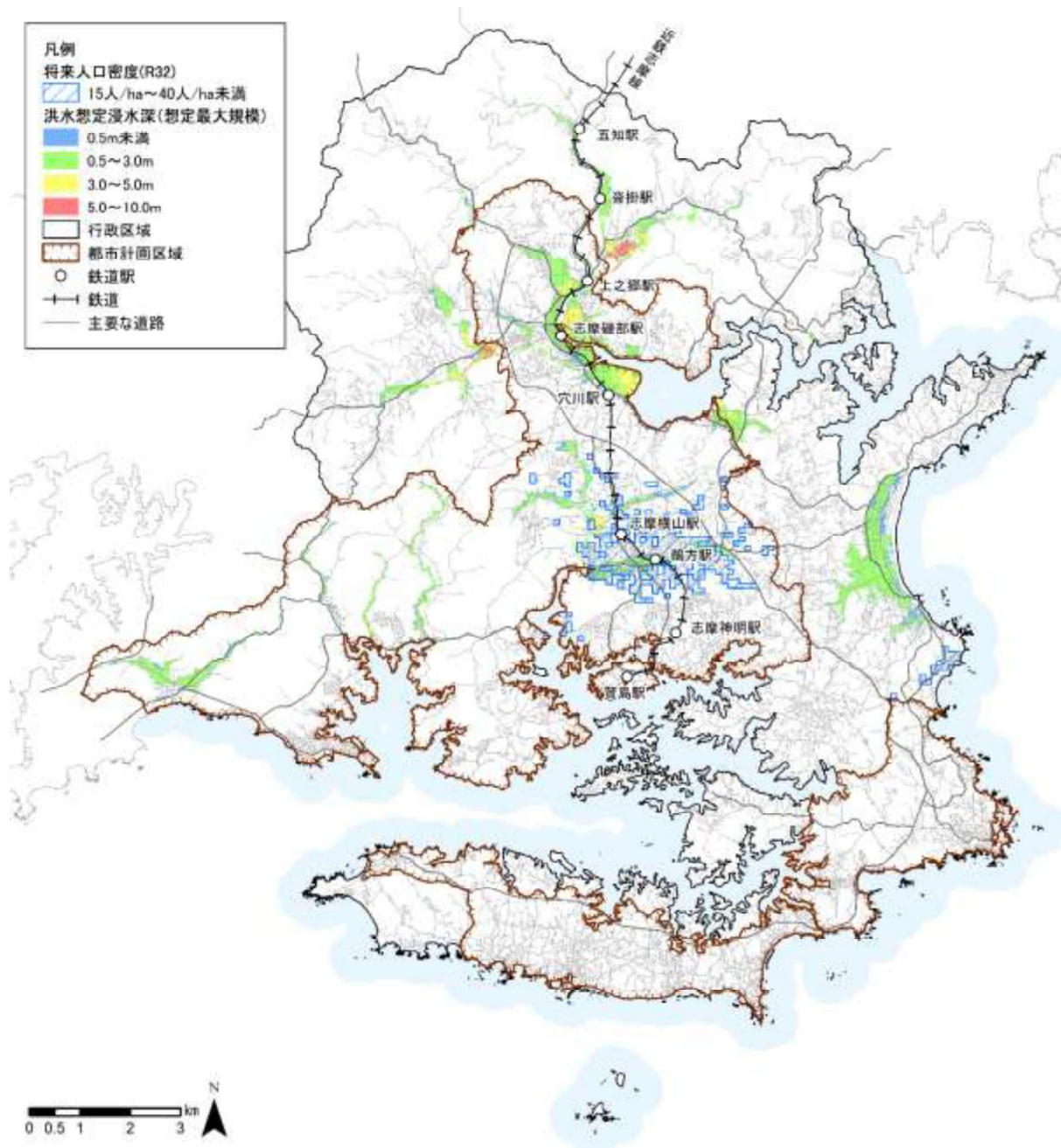


図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
将来人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100m ヶ ヌ ヌ ヌ 令和 32(2050)年

○洪水浸水継続時間とメッシュ人口密度の重ね合わせ

・人口密度(R2)では、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満の区域の一部(志摩磯部駅周辺・穴川駅周辺・国府・甲賀など)において、洪水浸水継続時間 12 時間未満または 12 時間以上～24 時間未満の区域と重なって分布しているほか、一部では 24 時間以上～72 時間未満の区域との重なりもみられる。将来人口密度(R32)においては、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満のエリアが縮小し、洪水浸水継続時間との重なりは大きくはみられない。

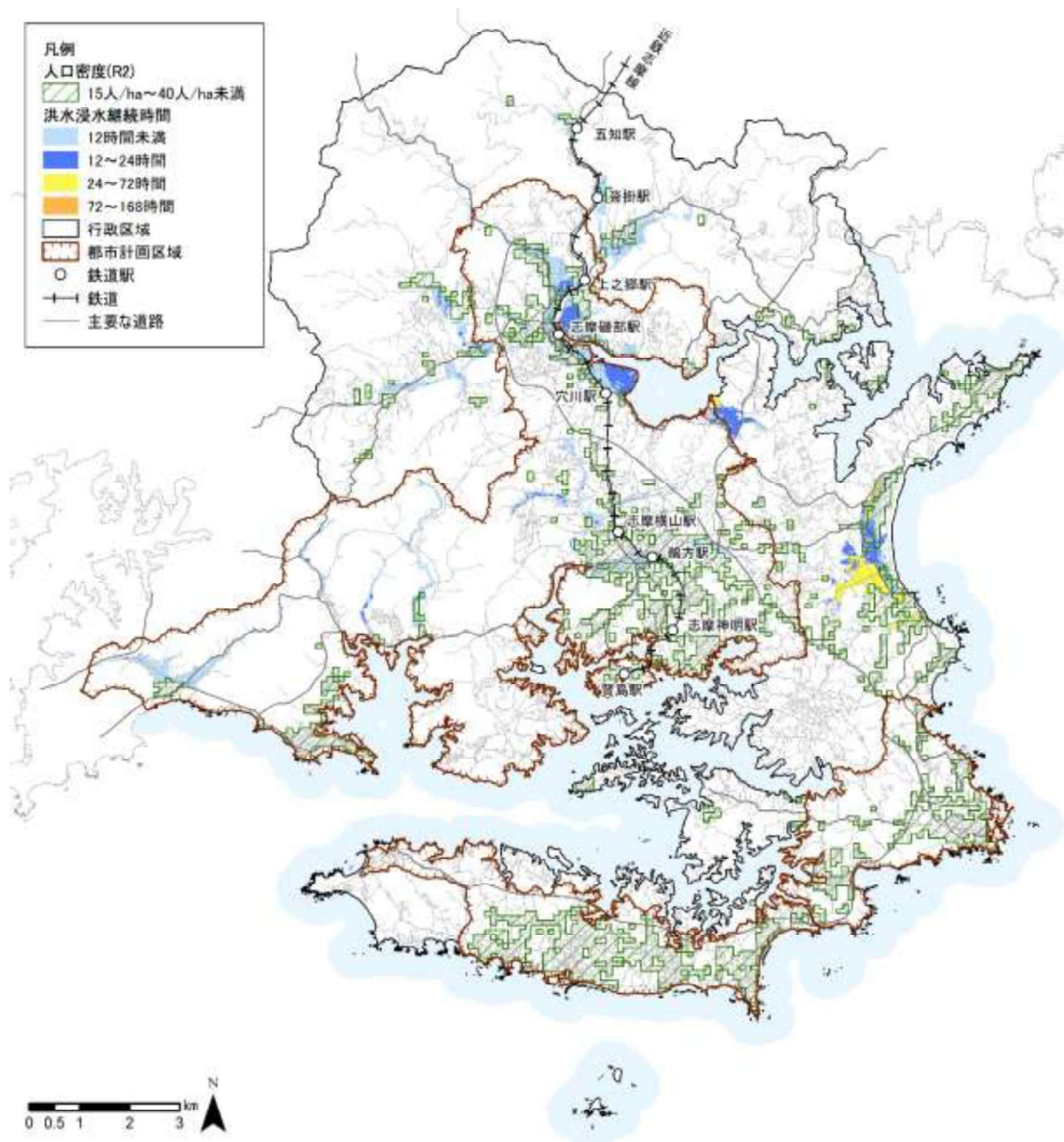


図 洪水浸水継続時間(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
人口密度 15 人/ha～40 人/ha 未満 100m メッシュ 令和 2(2020)年

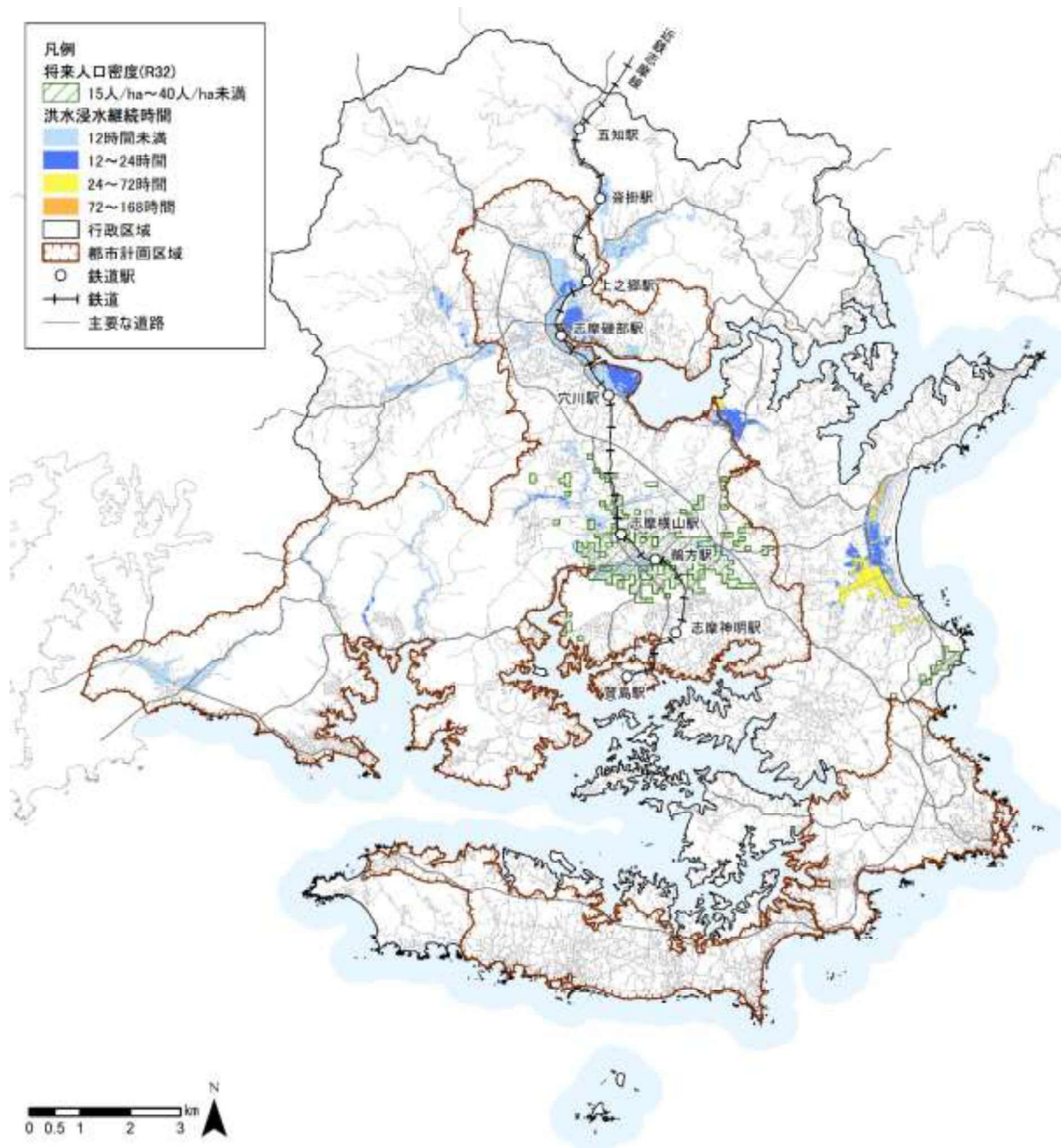


図 洪水浸水継続時間(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
将来人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100mメッシュ 令和 32(2050)年

○家屋倒壊等氾濫想定区域とメッシュ人口密度の重ね合わせ

- ・人口密度(R2)では、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満の区域の一部(志摩横山駅周辺など)において、家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)と重なって分布している。将来人口密度(R32)においては、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満のエリアが縮小することに伴い、家屋倒壊等氾濫想定区域との重なりは大きくはみられない。

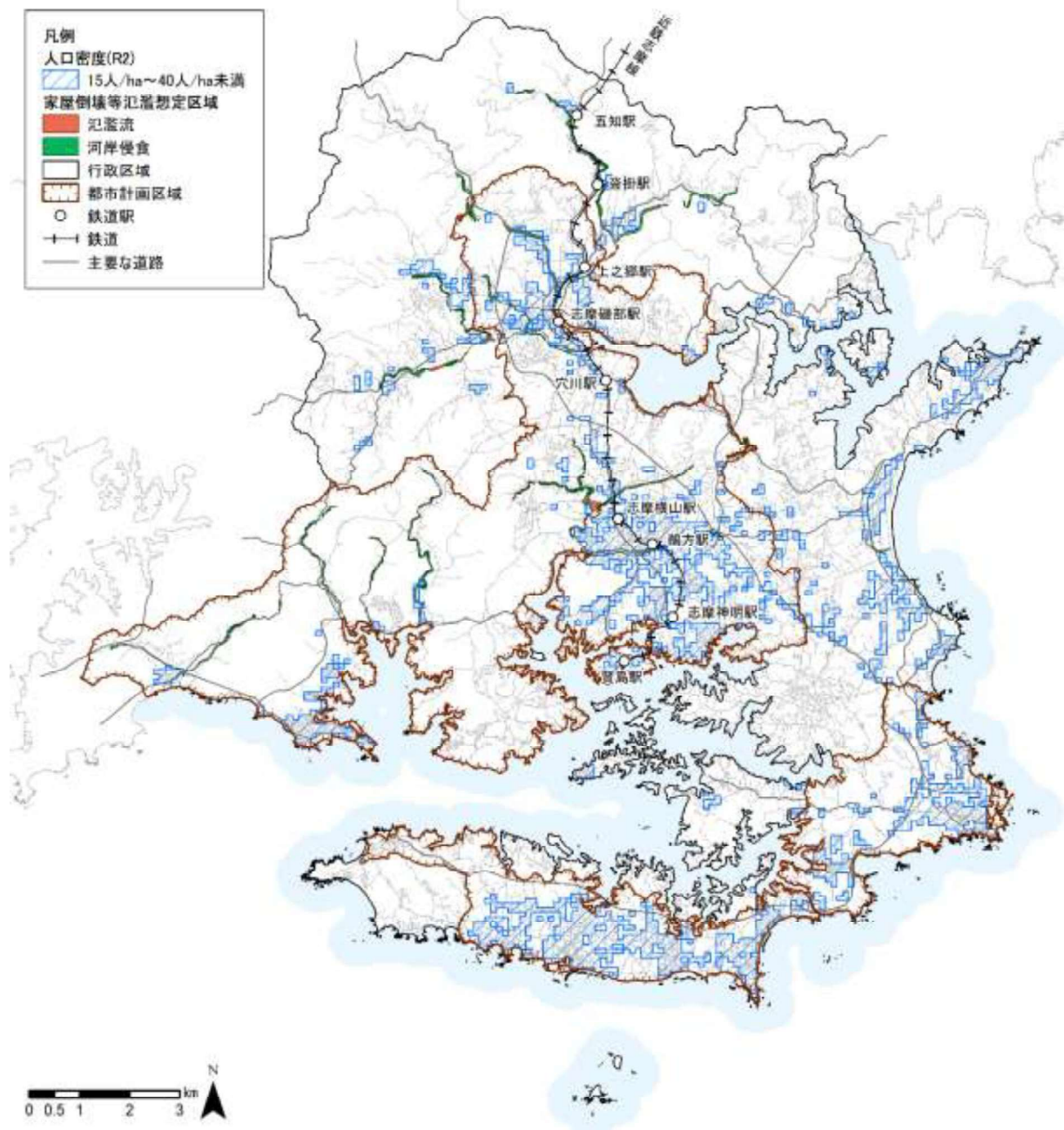


図 家屋倒壊等氾濫想定区域(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100m メッシュ 令和 2(2020)年

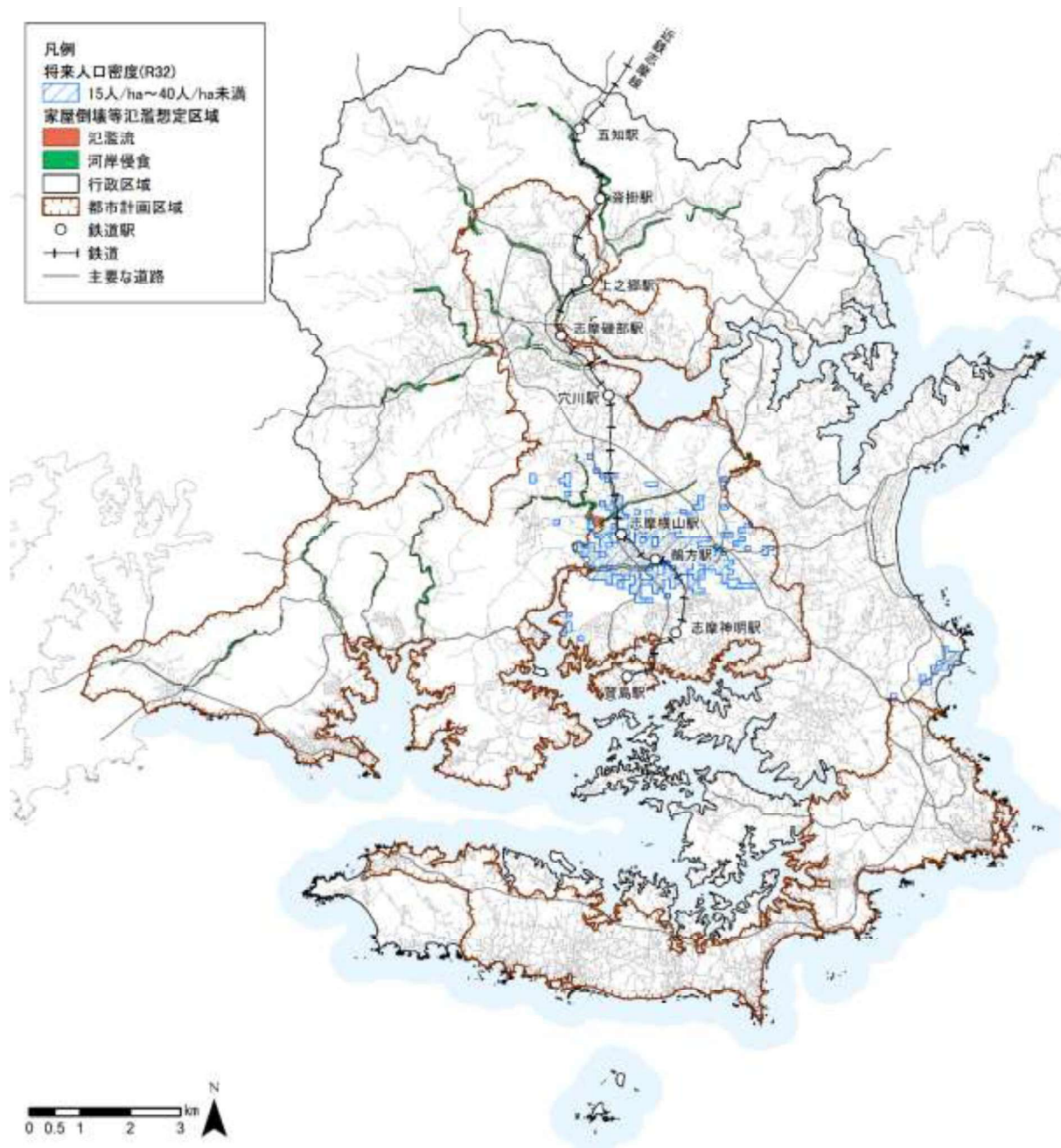


図 家屋倒壊等氾濫想定区域(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
将来人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100mメッシュ 令和 32(2050)年

○津波浸水想定区域とメッシュ人口密度の重ね合わせ

・人口密度(R2)では、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満の区域の一部(志摩磯部駅周辺、鵜方駅・志摩神明駅周辺、国府、甲賀・片田・和具など)において、津波想定浸水深 1~2m、2~5m、5m 以上の区域と重なって分布している。特に沿岸部では、人口集積と比較的深い浸水想定区域の重なりがみられる。将来人口密度(R32)においては、人口密度 15 人/ha 以上 40 人/ha 未満の区域が縮小する一方で、鵜方駅周辺では引き続き津波想定浸水区域との重なりがみられる。

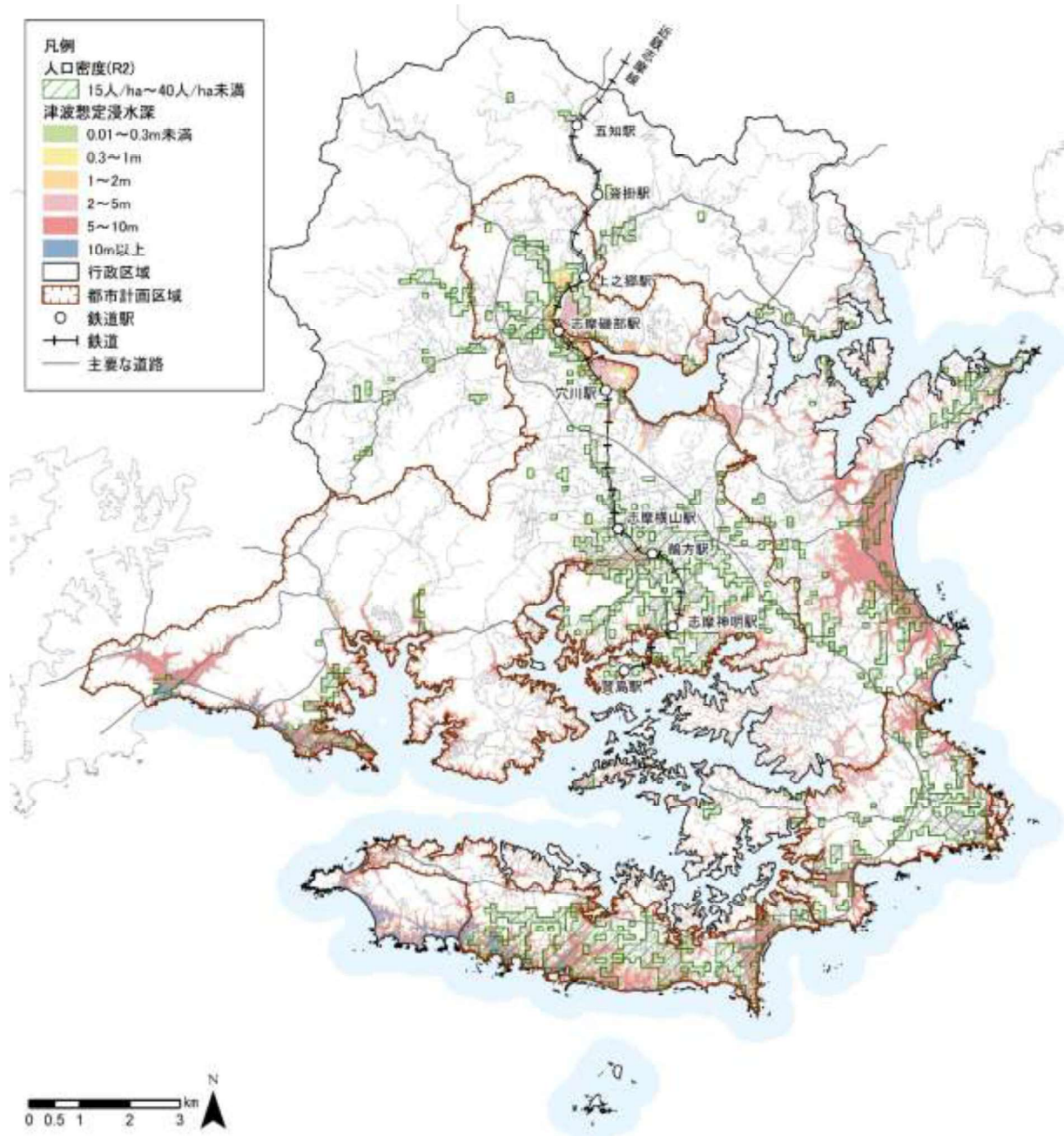


図 津波浸水想定区域(平成25年度地震被害想定調査(三重県)) 平成 25(2013)年、人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100m メッシュ 令和 2(2020)年

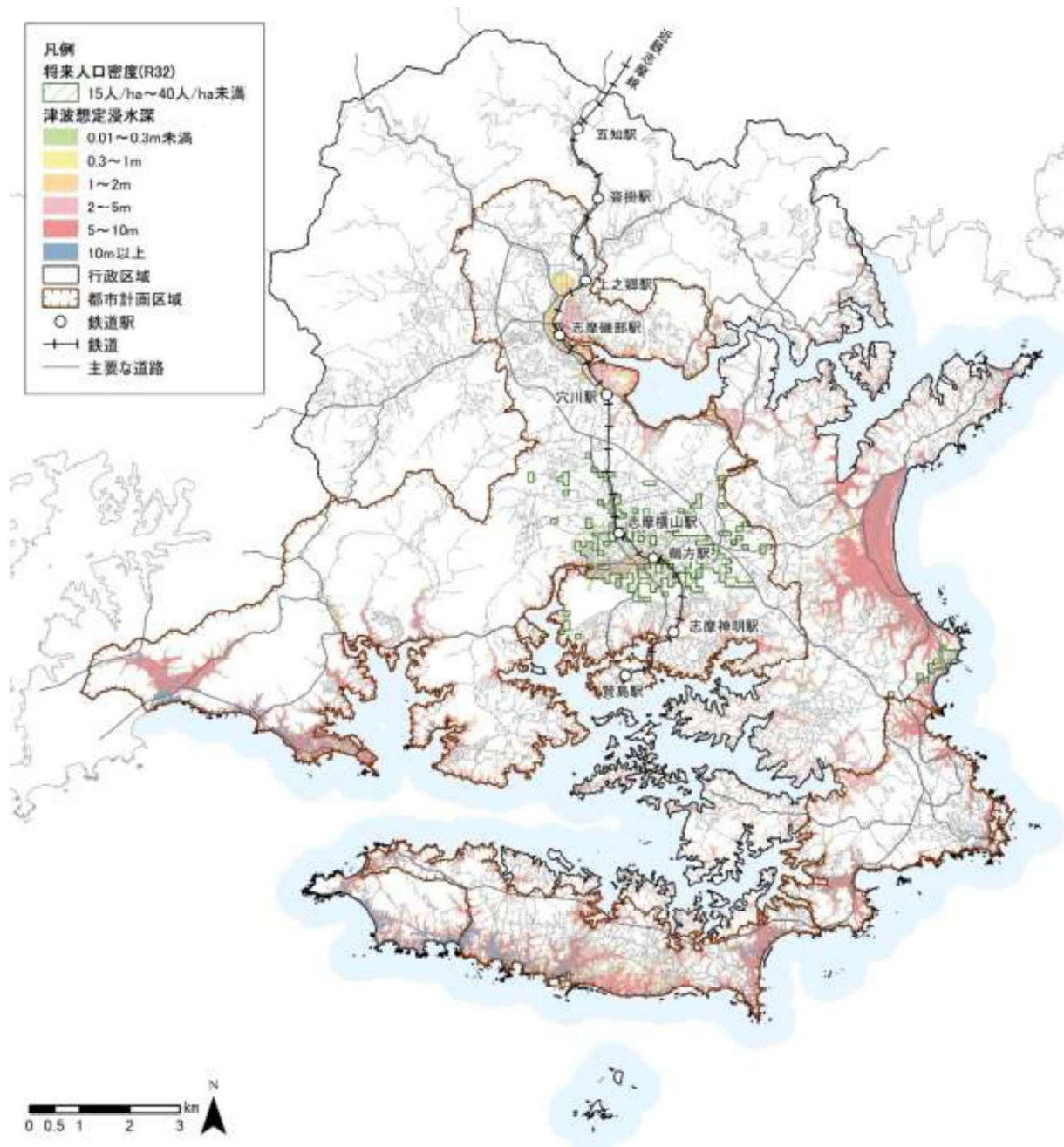


図 津波浸水想定区域(平成25年度地震被害想定調査(三重県)) 平成 25(2013)年、
将来人口密度 15 人/ha~40 人/ha 未満 100m ヲツシユ 令和 32(2050)年

○土砂災害(特別)警戒区域と避難所の重ね合わせ

・土砂災害(特別)警戒区域の周辺には、指定避難所および福祉避難所が一定数立地している。一方で、これらの避難施設の一部は、土砂災害(特別)警戒区域内に立地している。

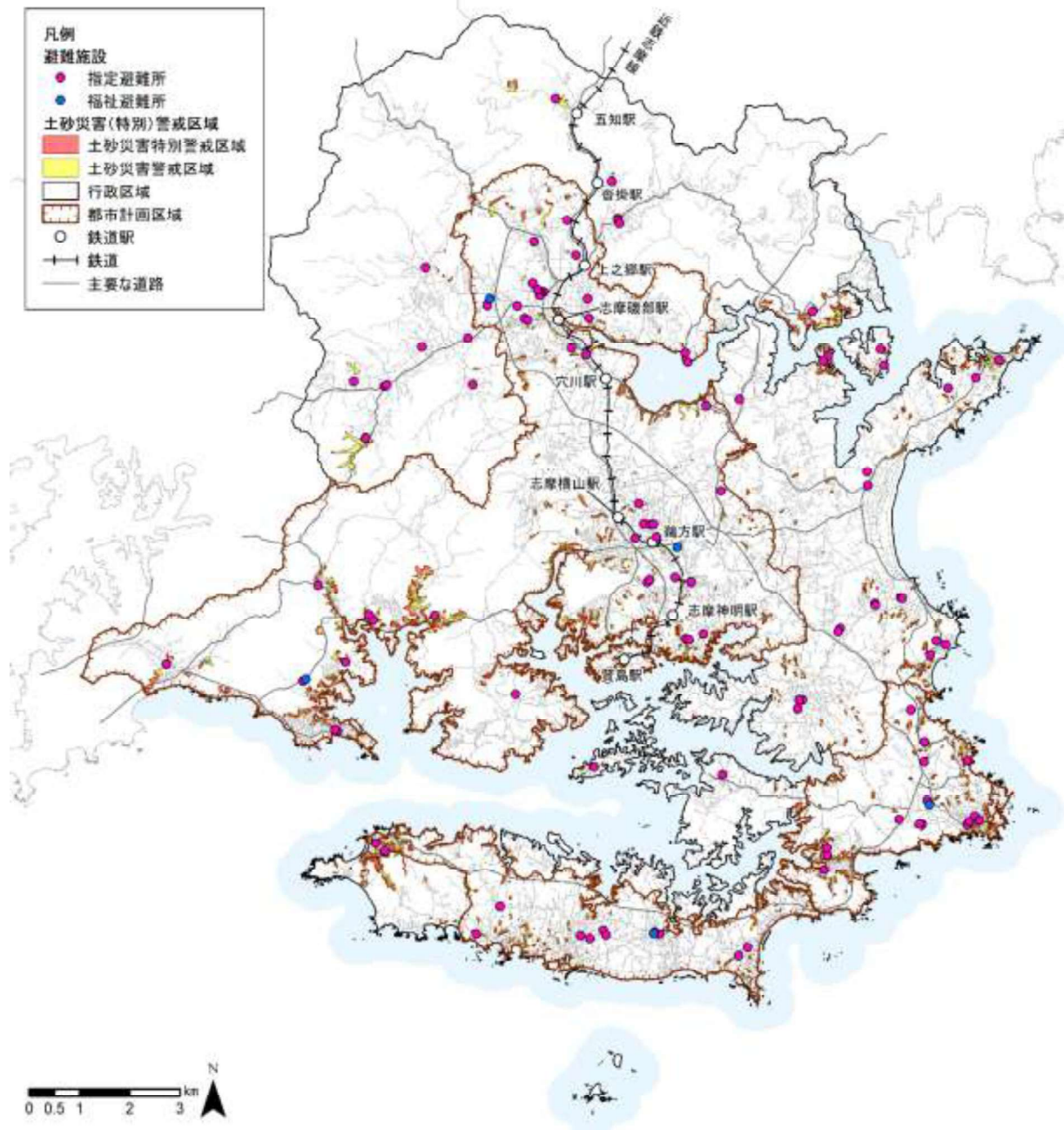


図 土砂災害(特別)警戒区域(三重県土砂災害情報提供システム) 令和 6(2024)年、
避難所(地域防災計画) 令和 7(2025)年度

※土砂災害時に開設される避難施設のみ表示

○洪水浸水想定区域と避難所の重ね合わせ

- ・洪水浸水想定区域(計画規模)の周辺には、指定避難所および福祉避難所が複数立地している。

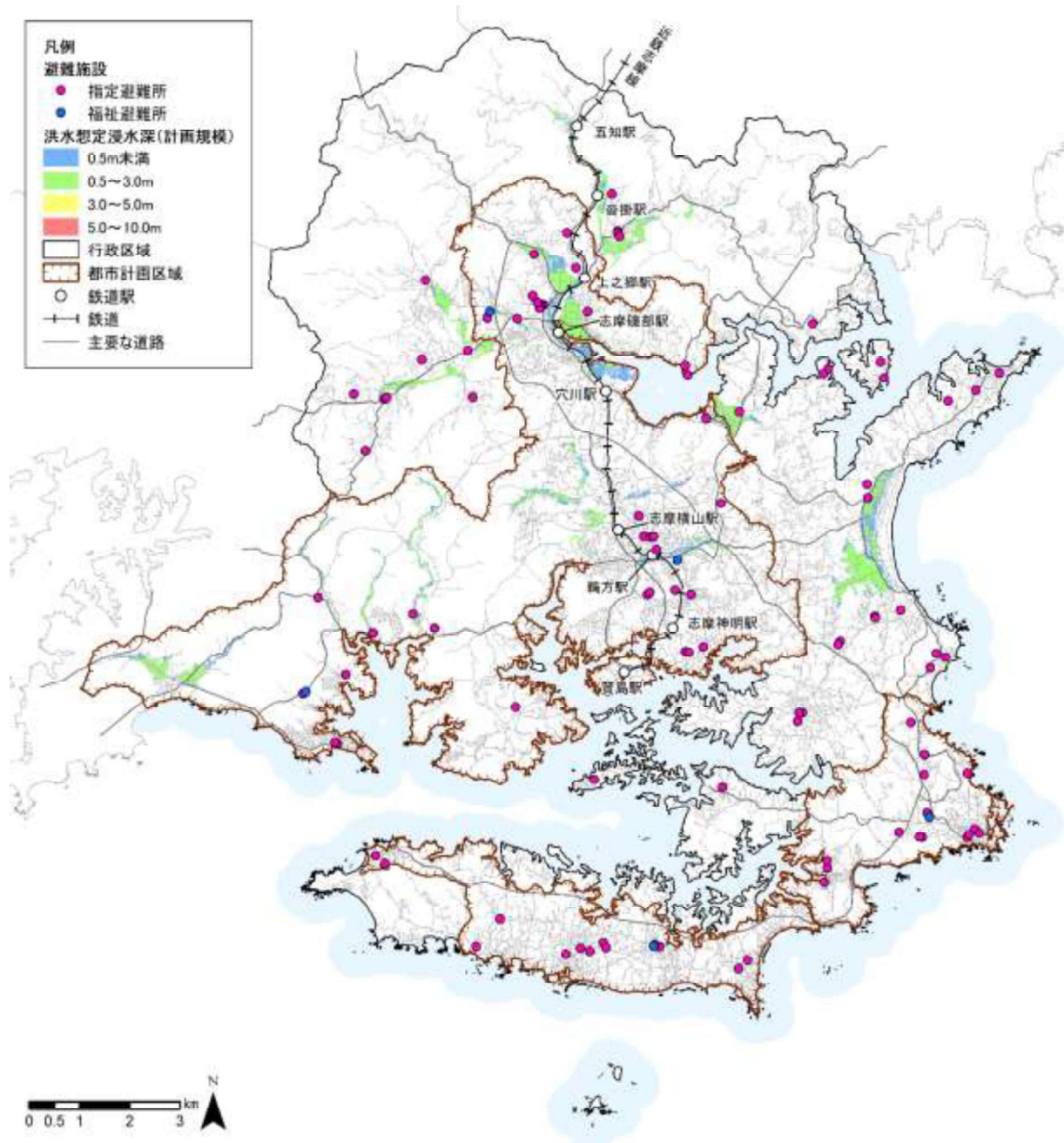


図 洪水浸水想定区域 (計画規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
避難所(地域防災計画) 令和 7(2025)年度

※洪水時に開設される避難施設のみ表示

・洪水浸水想定区域(想定最大規模)の周辺には、指定避難所および福祉避難所が複数立地している。一方で、これらの避難施設の一部は、沓掛駅周辺などで洪水浸水想定区域(想定最大規模)内に立地しており、特に浸水深 3.0m 以上～5.0m 未満の区域と重なっている箇所がみられる。

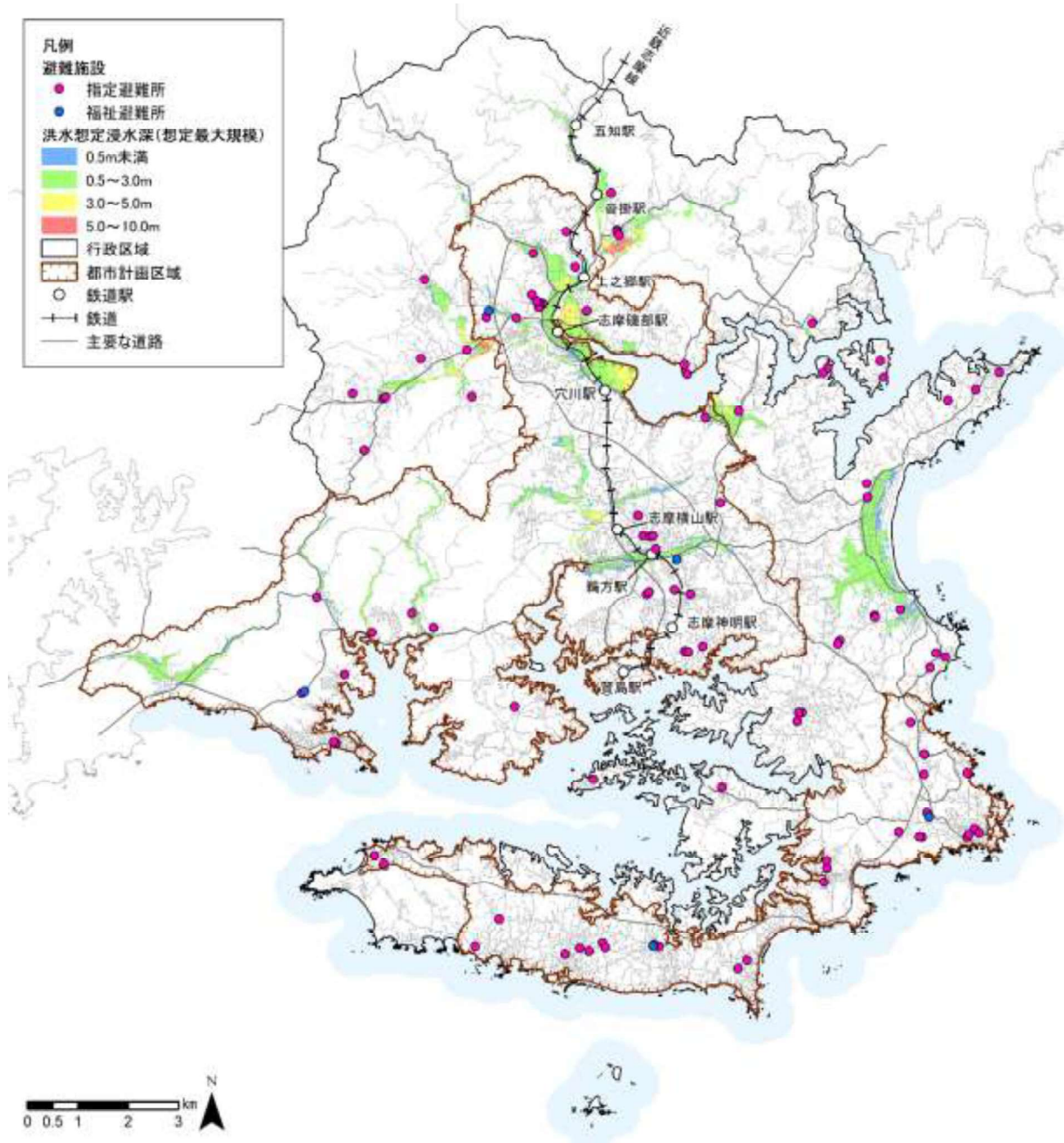


図 洪水浸水想定区域 (想定最大規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
避難所(地域防災計画) 令和 7(2025)年度

※洪水時に開設される避難施設のみ表示

○洪水浸水継続時間と避難所の重ね合わせ

- ・洪水浸水継続時間が想定されている区域の周辺には、指定避難所および福祉避難所が複数立地している。

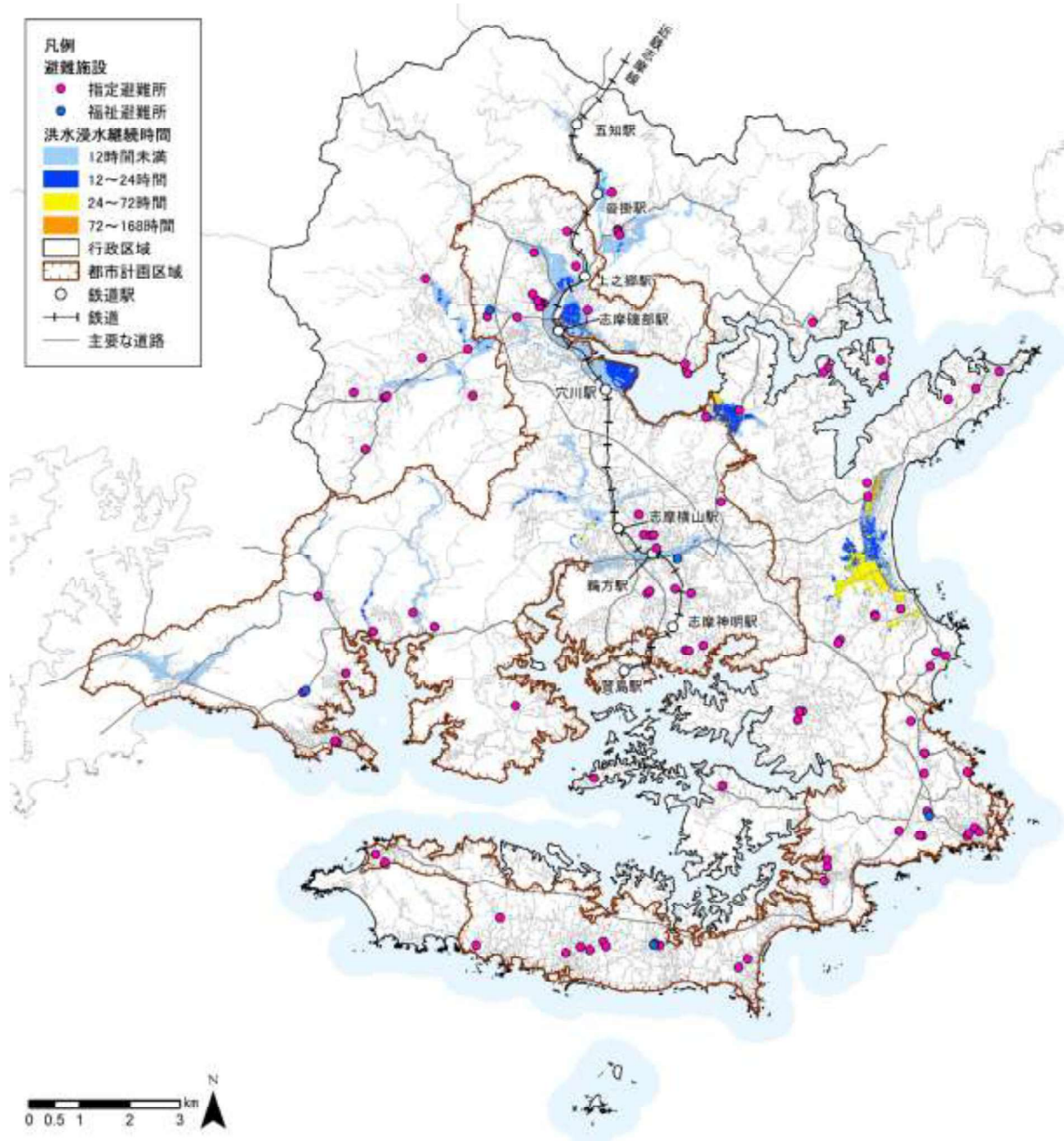


図 洪水浸水継続時間(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
避難所(地域防災計画) 令和 7(2025)年度

※洪水時に開設される避難施設のみ表示

○家屋倒壊等氾濫想定区域と避難所の重ね合わせ

- ・家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)が指定されている区域の周辺には、指定避難所および福祉避難所が点在して立地している。一方で、避難所の多くは当該想定区域の外側に位置しており、家屋倒壊等氾濫想定区域内に立地している避難施設はみられない。

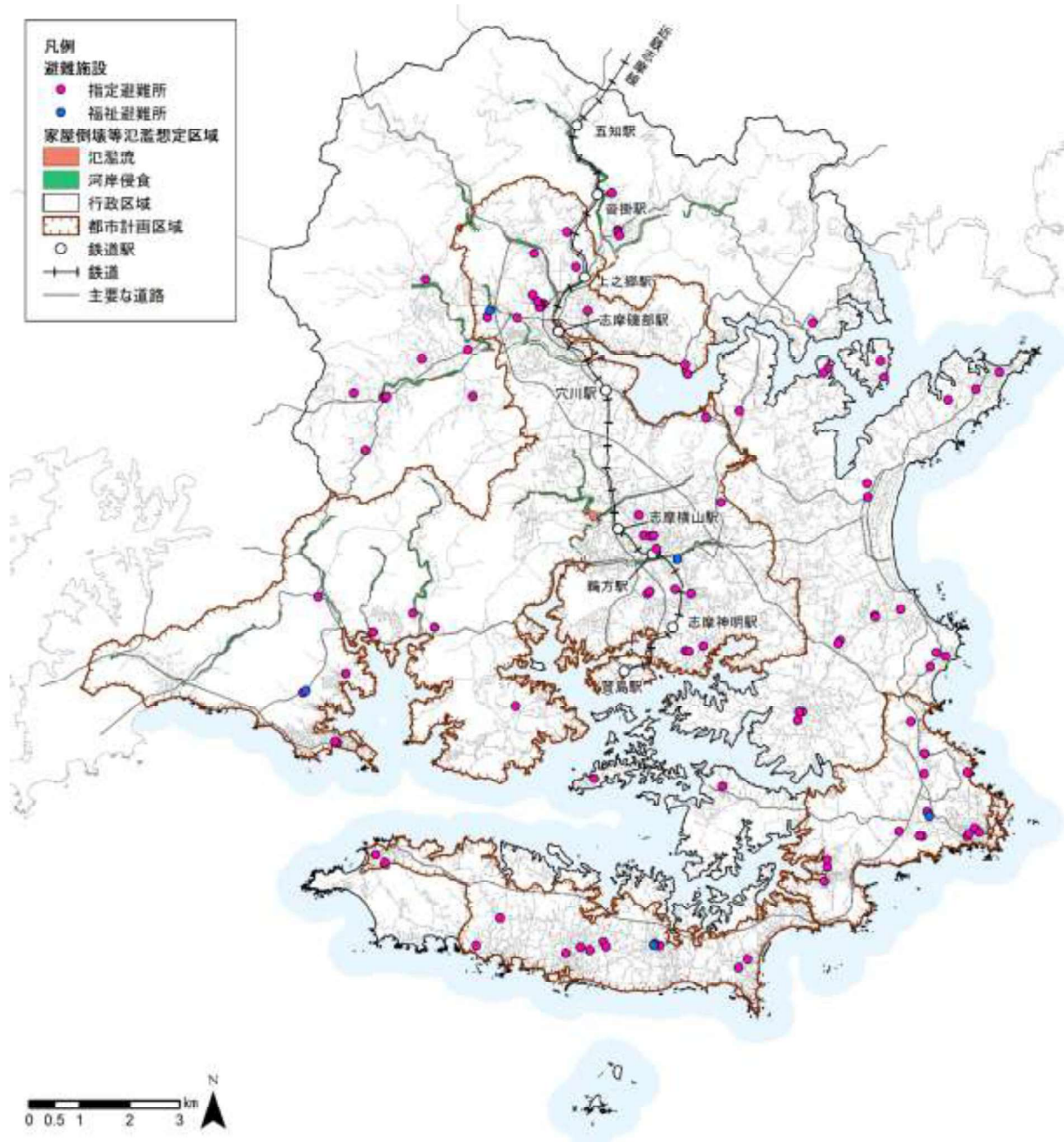


図 家屋倒壊等氾濫想定区域(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
避難所(地域防災計画) 令和 7(2025)年度

※洪水時に開設される避難施設のみ表示

○津波浸水想定区域と避難所の重ね合わせ

- ・津波想定浸水深が示されている沿岸部を中心に、指定避難所および福祉避難所が一定数立地している。
- また、津波想定浸水深 5m 以上が想定される沿岸部においては、津波避難施設として津波避難タワーが一定数設置されている。

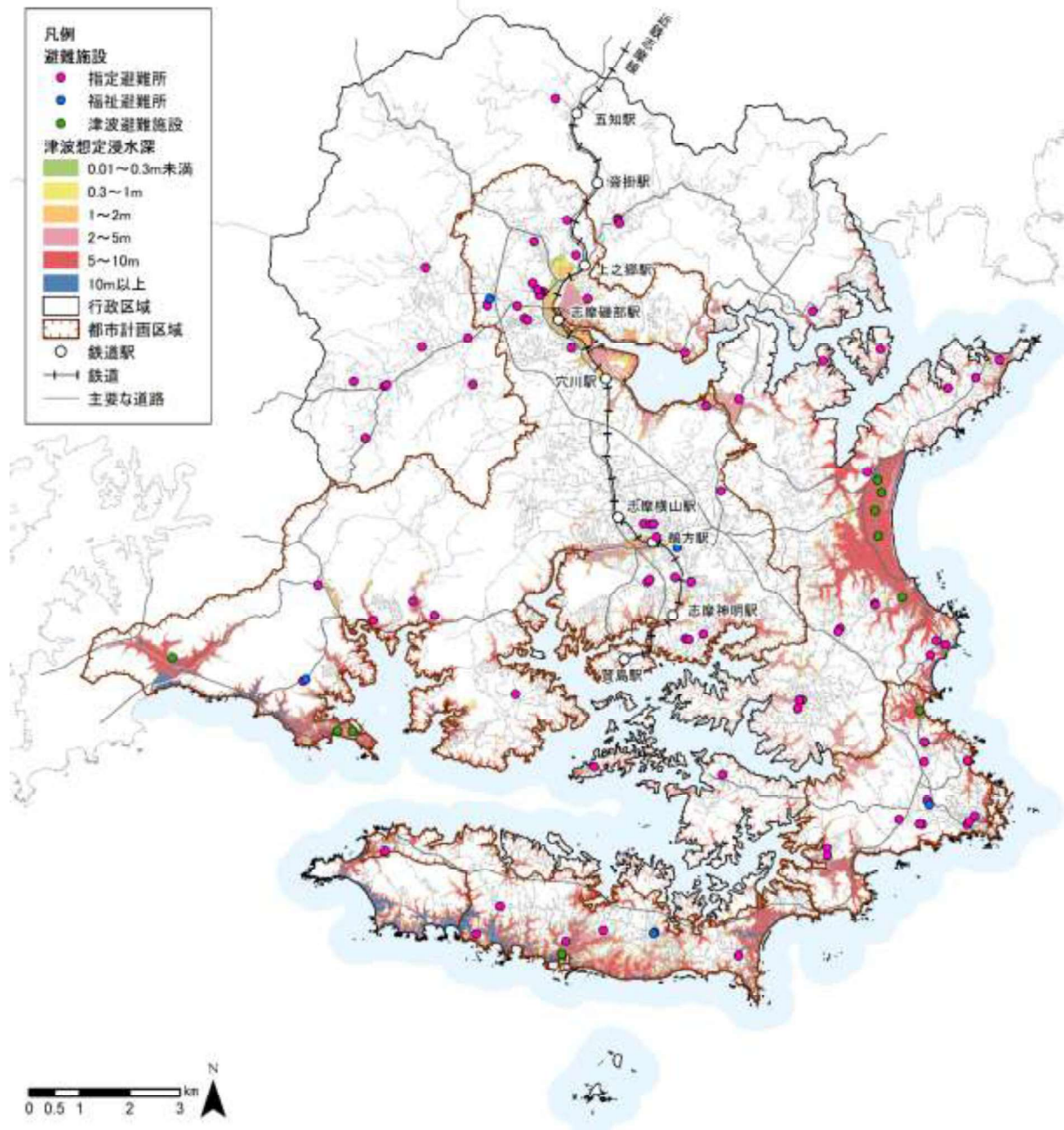


図 津波浸水想定区域(平成25年度地震被害想定調査(三重県)) 平成 25(2013)年、
避難所(地域防災計画) 令和 7(2025)年度

※津波時に開設される避難施設のみ表示

○土砂災害警戒区域と都市機能の重ね合わせ

- ・土砂災害(特別)警戒区域内の一部で、都市機能施設が立地している。

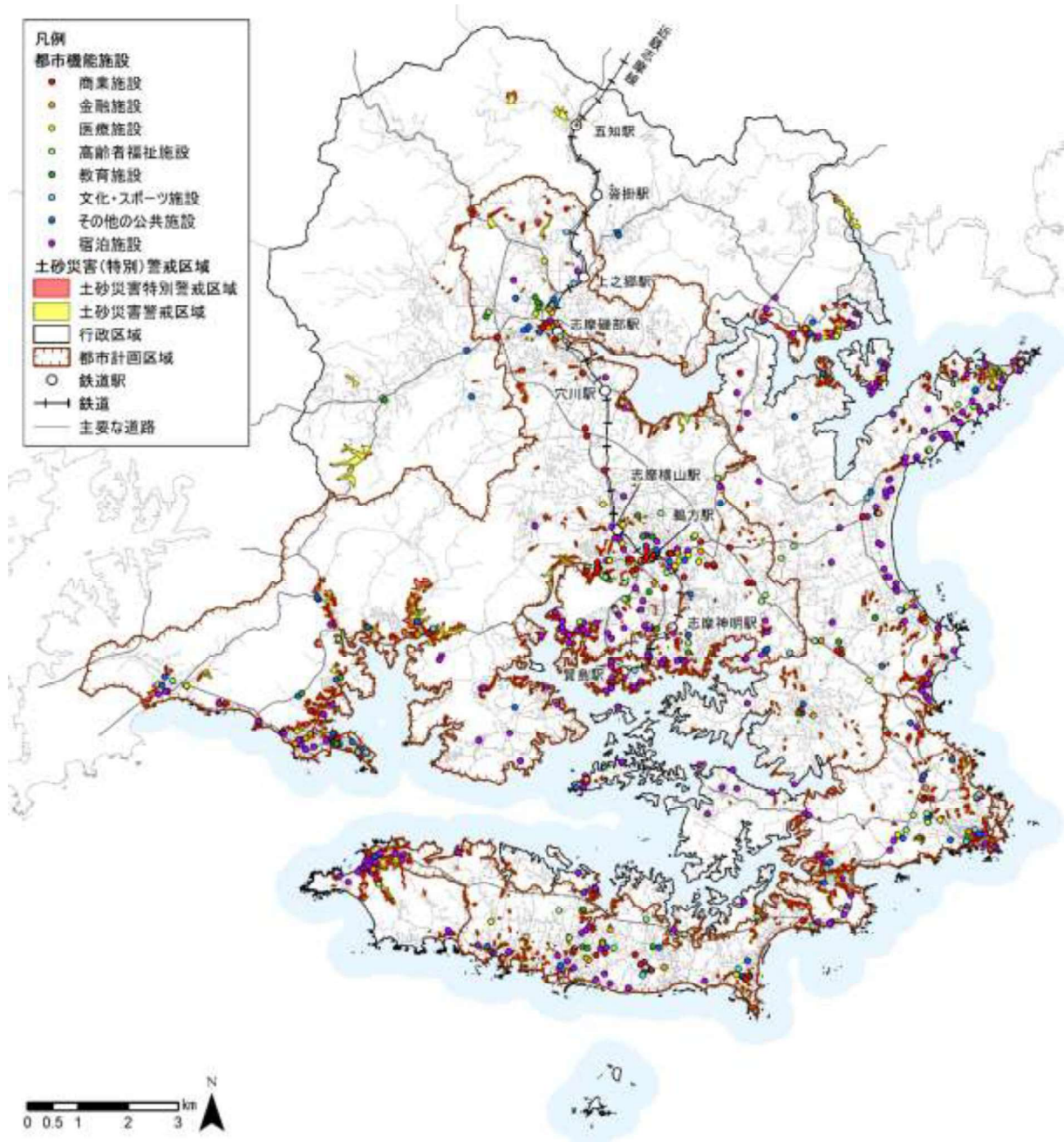


図 土砂災害警戒区域(三重県土砂災害情報提供システム) 令和6(2024)年、都市機能

○洪水浸水想定区域と都市機能の重ね合わせ

・洪水浸水想定区域内の一部で、商業施設、医療施設、福祉施設などの都市機能施設が立地している。特に、国府・甲賀などでは、浸水深 0.5～3.0m 程度の区域内に都市機能施設が立地している。

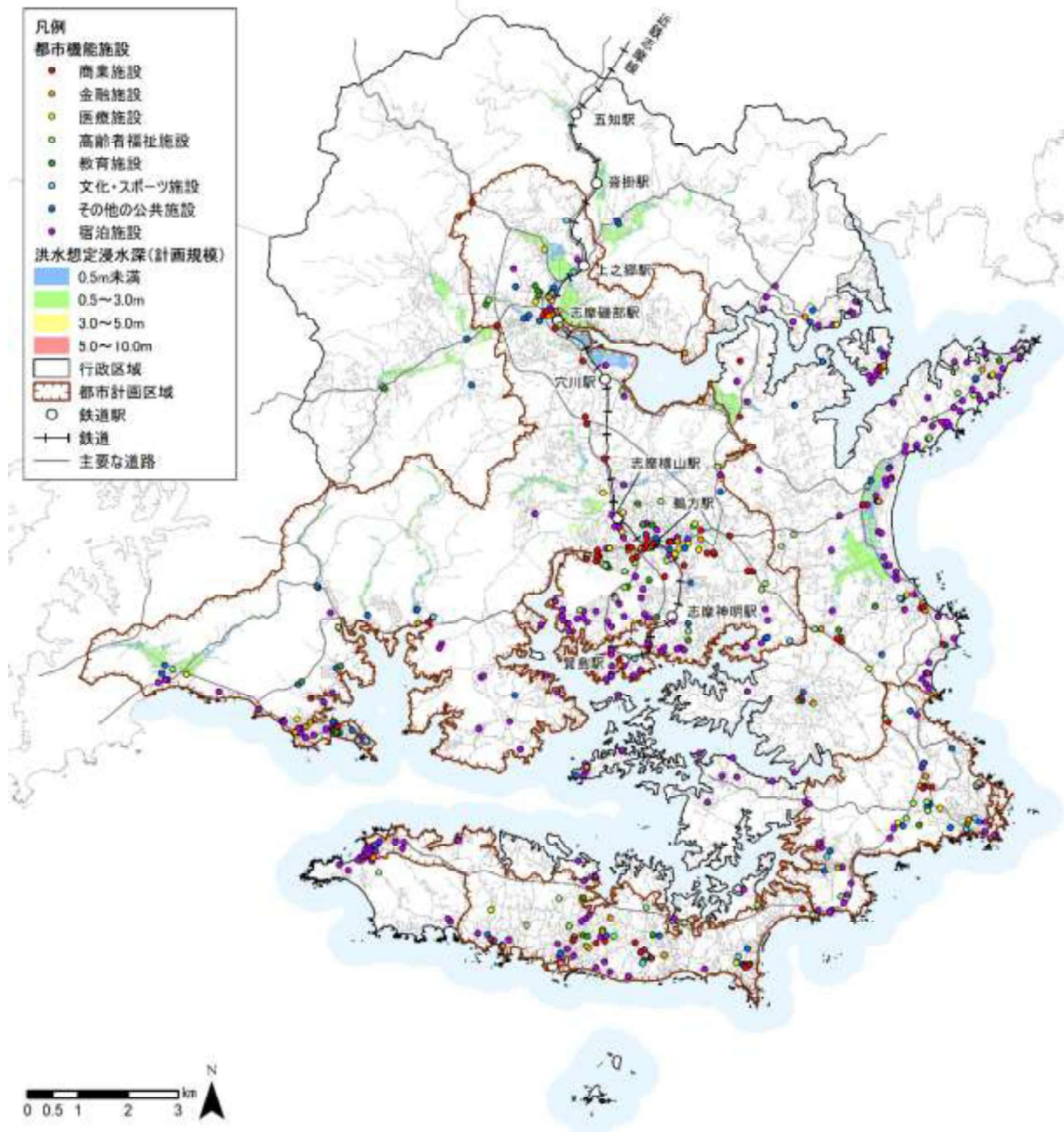


図 洪水浸水想定区域(計画規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、都市機能

・洪水浸水想定区域内の一部で、商業施設、医療施設、福祉施設などの都市機能施設が立地している。特に、志摩磯部駅周辺・穴川駅周辺・鵜方駅周辺・国府・甲賀などでは、浸水深 0.5～3.0m 程度の区域内に都市機能施設が立地している。

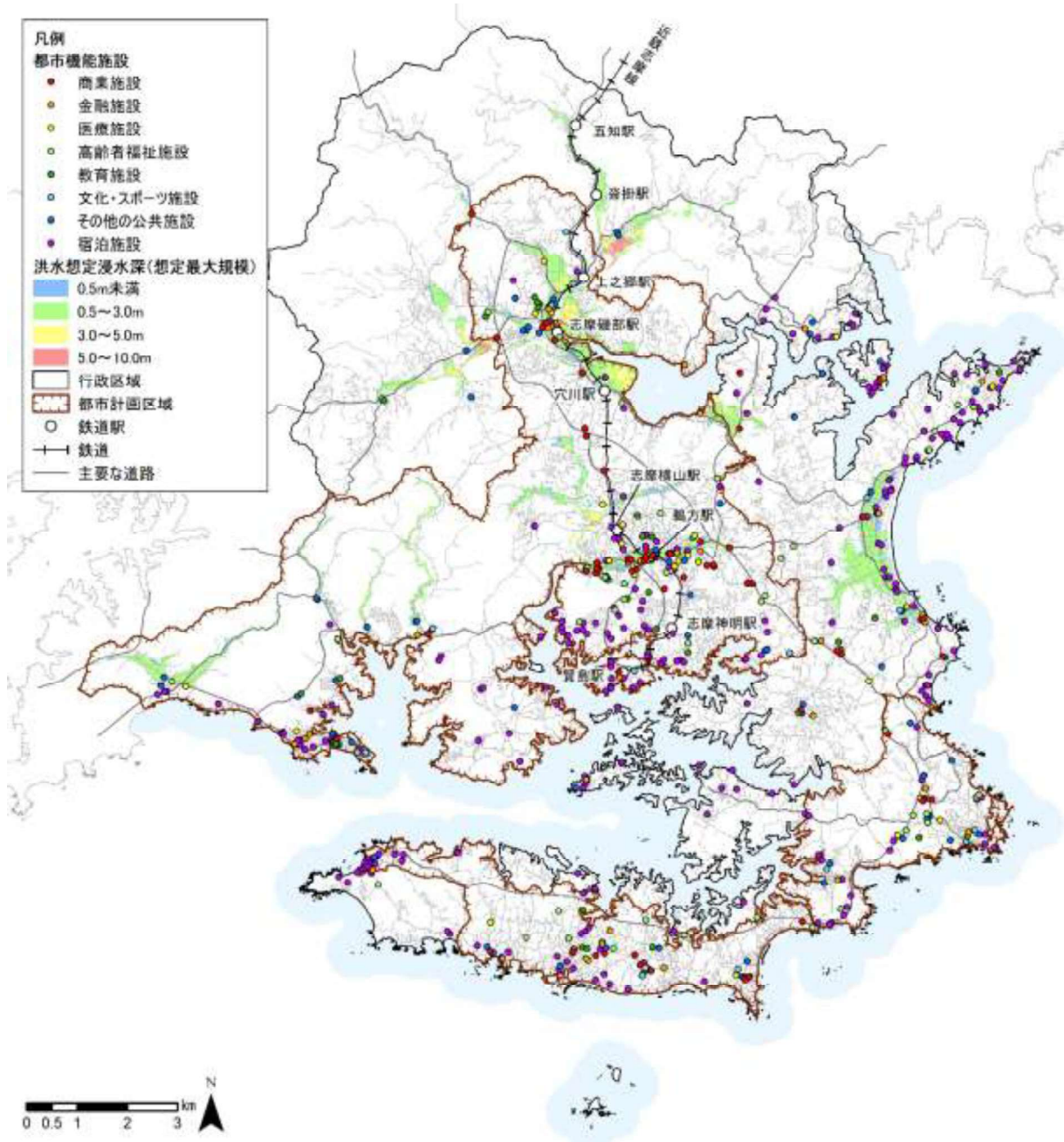


図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、都市機能

○洪水浸水継続時間と都市機能の重ね合わせ

・洪水浸水継続時間が12～24時間、24～72時間と想定される区域内の一部(特に、志摩磯部駅・国府・甲賀など)で、商業施設、医療施設、福祉施設などの都市機能施設が立地している。

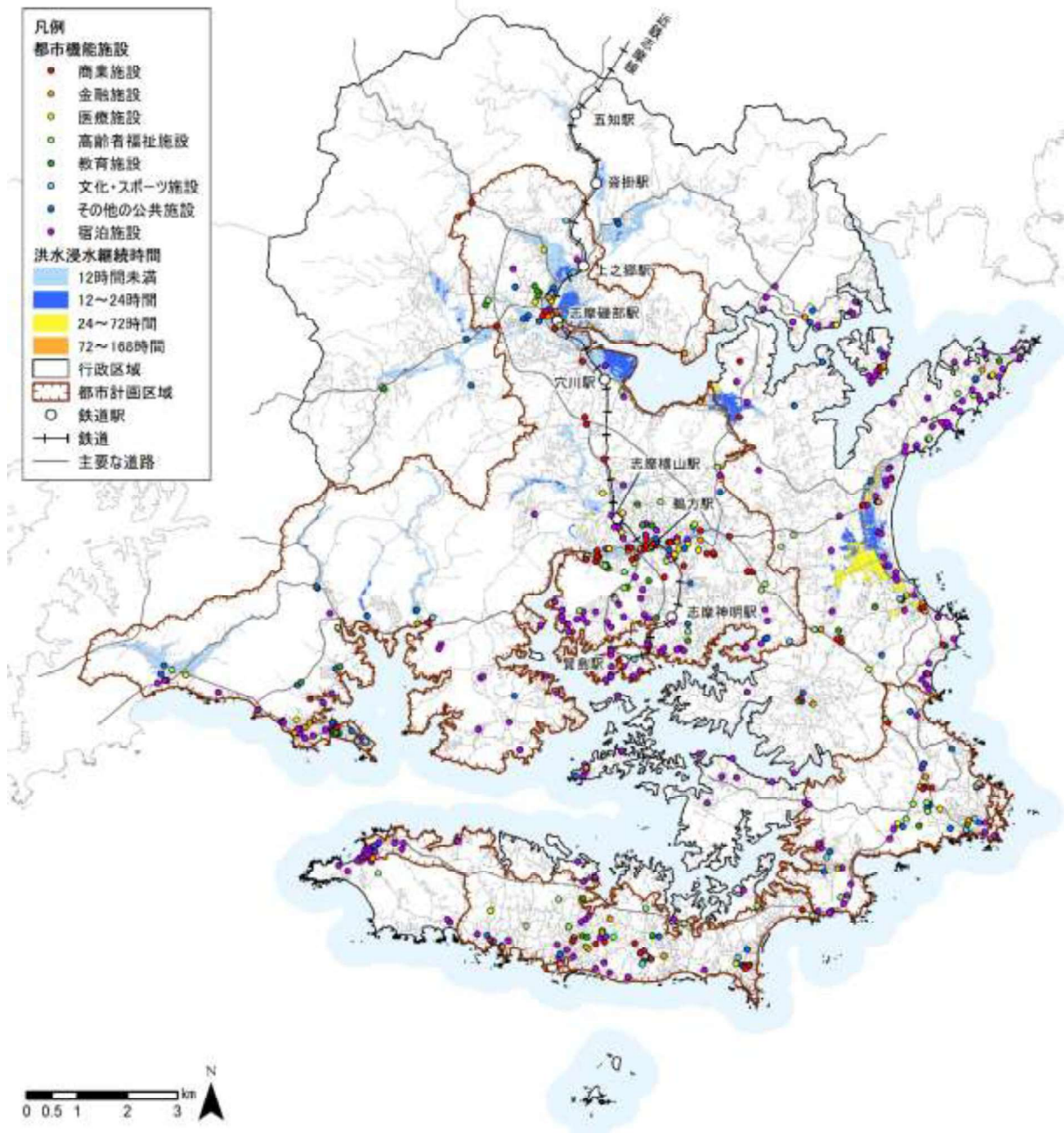


図 洪水浸水継続時間(国土数値情報) 令和6(2024)年度、都市機能

○家屋倒壊等氾濫想定区域と都市機能の重ね合わせ

- ・家屋倒壊等氾濫想定区域の一部で近接して都市機能施設が立地しているものの、想定区域内に立地している都市機能施設はみられない。

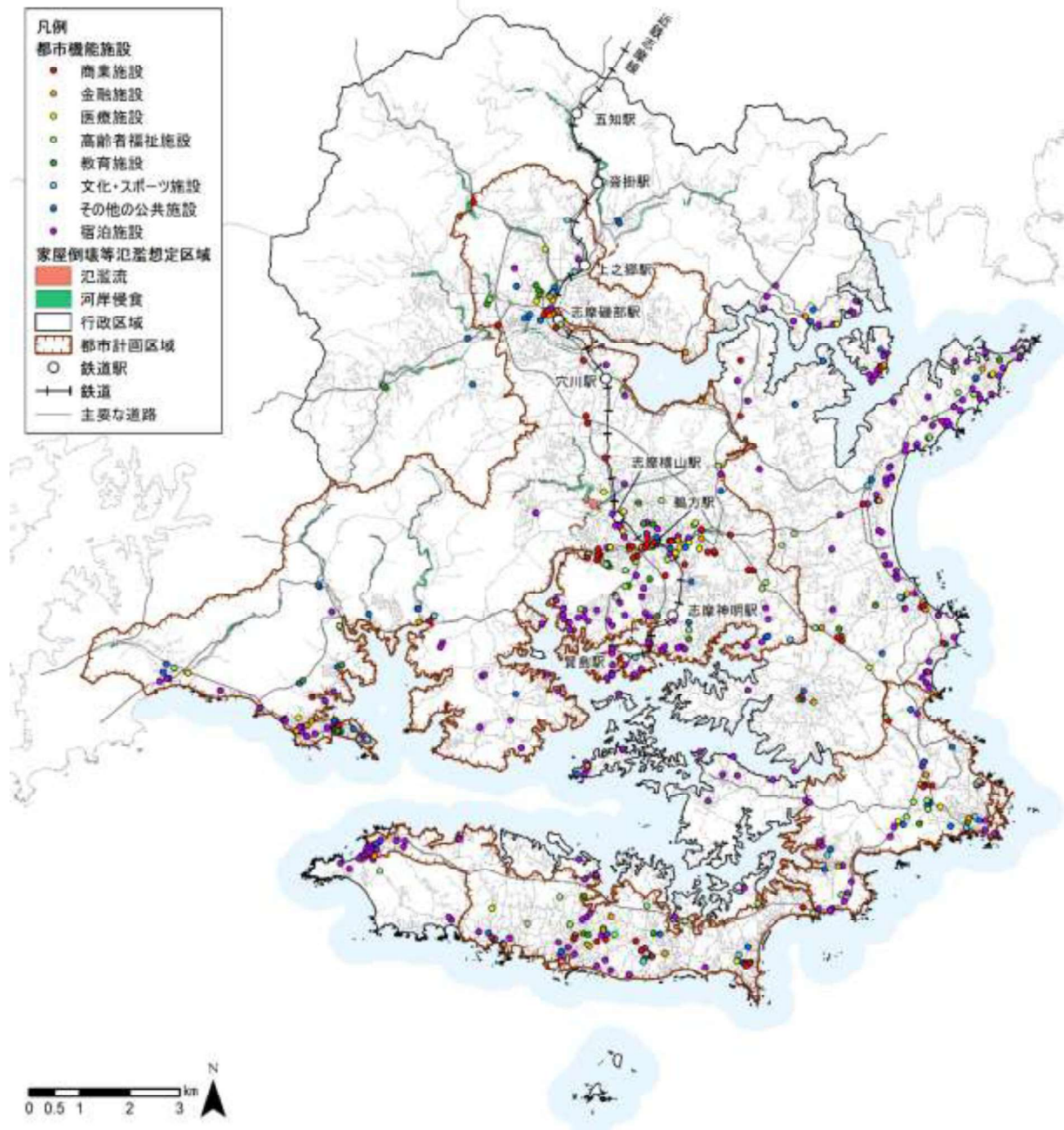


図 家屋倒壊等氾濫想定区域(国土数値情報) 令和6(2024)年度、都市機能

○土砂災害警戒区域と建物構造の重ね合わせ

- ・土砂災害(特別)警戒区域周辺の一部では、木造の建物が立地している。

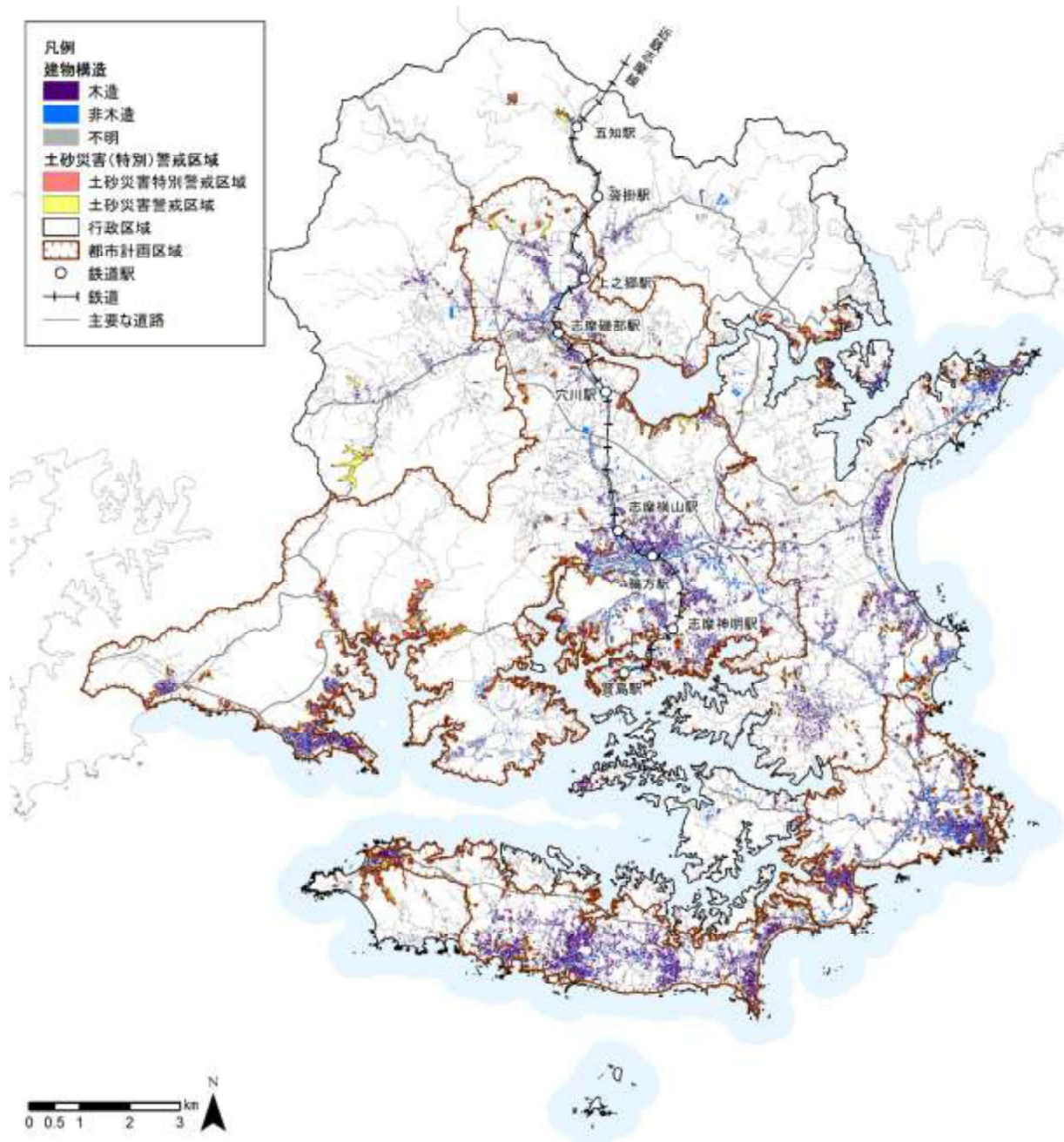


図 土砂災害警戒区域(三重県土砂災害情報提供システム) 令和 6(2024)年、
建物構造(家屋台帳、家屋図) 令和 7(2025)年

○洪水浸水想定区域と建物階数の重ね合わせ

- ・洪水浸水想定区域(計画規模)においては、浸水深 0.5m 未満～3.0m と想定される一部区域で、1 階建ての建物が多く分布している。

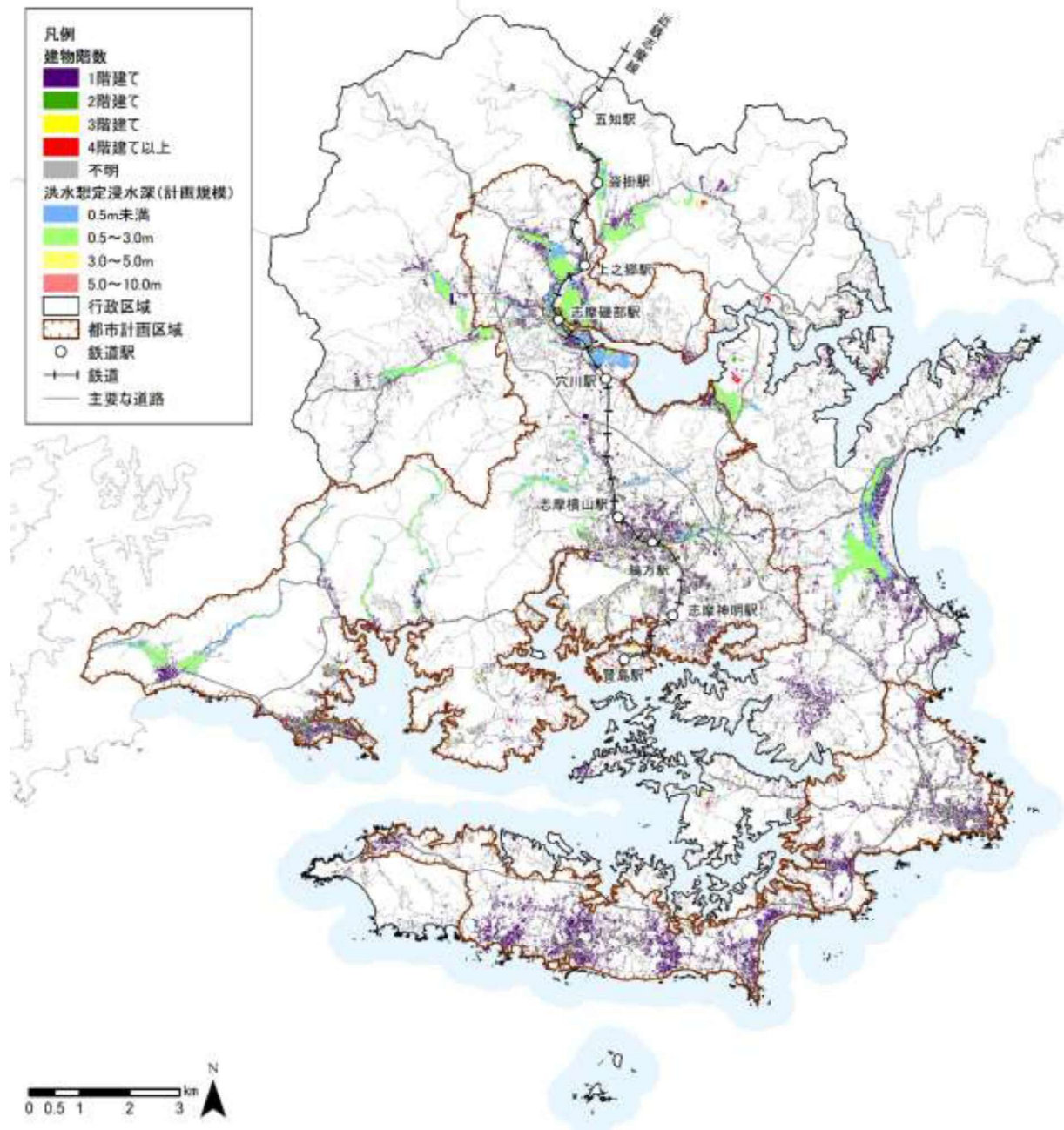


図 洪水浸水想定区域(計画規模)(国土数値情報) 令和6(2024)年度、
建物階数(家屋台帳、家屋図) 令和7(2025)年

・洪水浸水想定区域(想定最大規模)においては、浸水深 3.0m 以上～5.0m 未満、5.0m 以上と想定される一部区域(志摩磯部駅周辺・鵜方駅周辺・国府・甲賀など)で、1 階建て・2 階建ての建物が多く分布している。

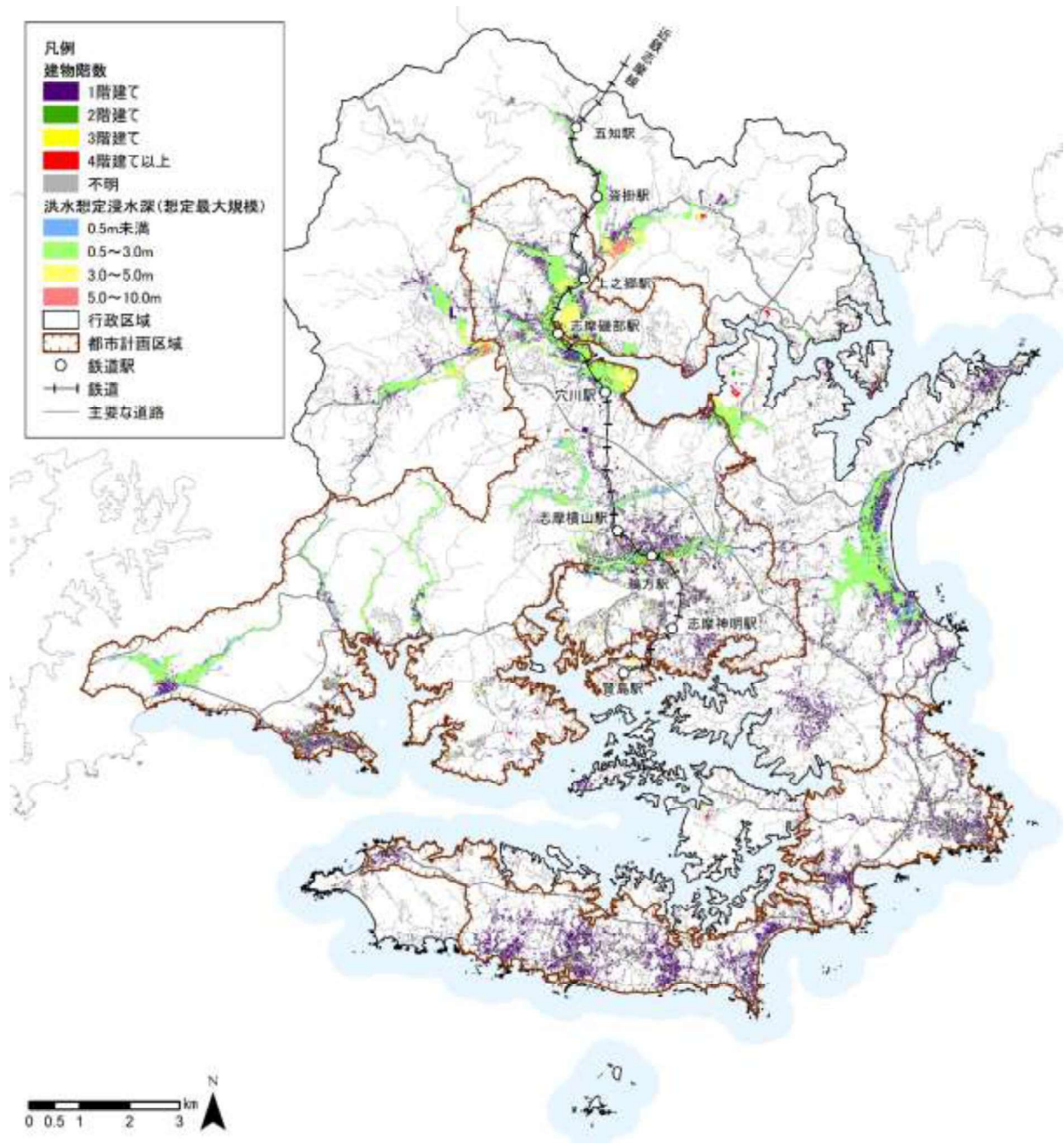


図 洪水浸水想定区域 (想定最大規模)(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
建物階数(家屋台帳、家屋図) 令和 7(2025)年

○家屋倒壊等氾濫想定区域と建物構造の重ね合わせ

- ・家屋倒壊等氾濫想定区域周辺の一部では、木造の建物が立地している。

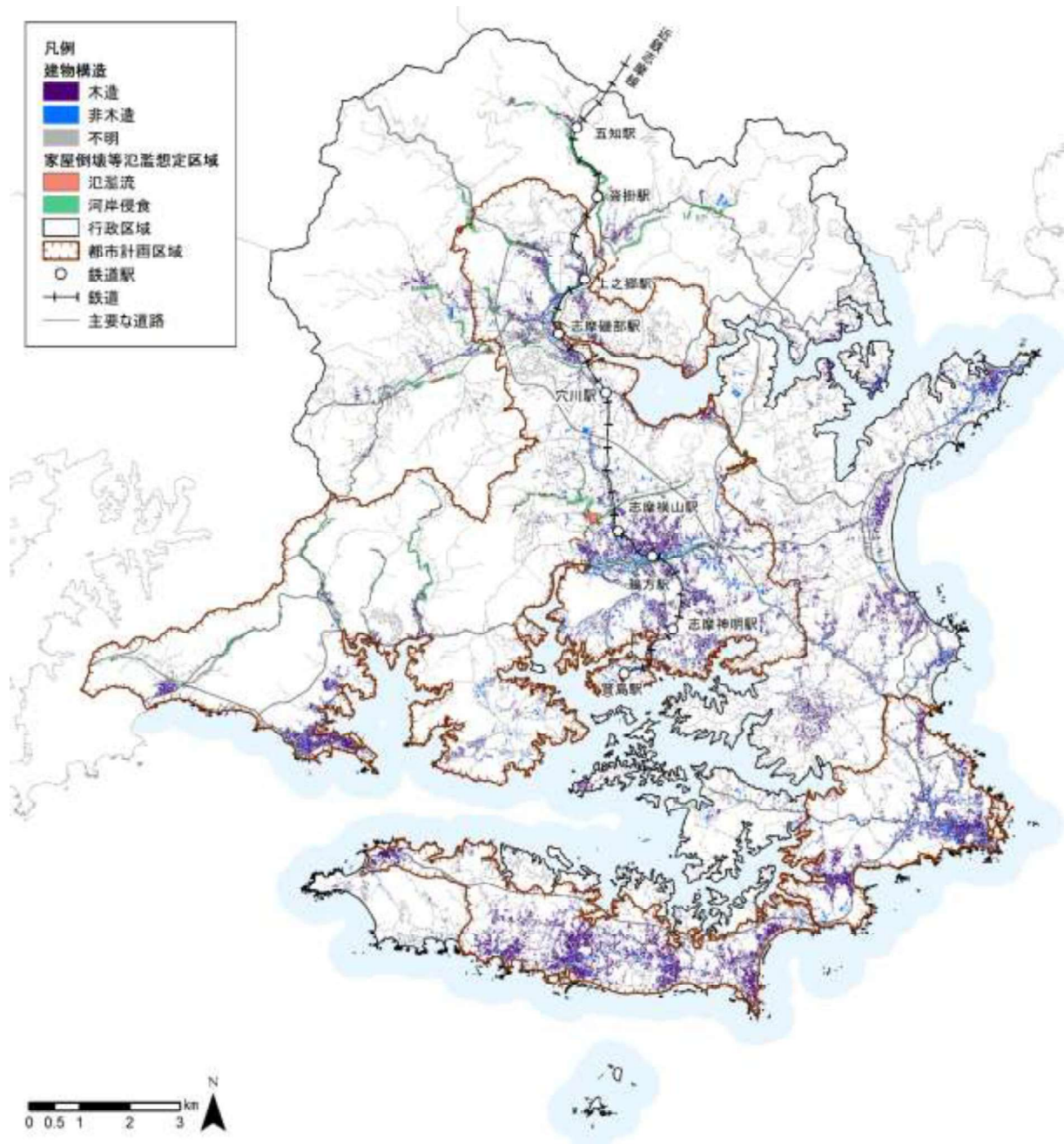


図 家屋倒壊等氾濫想定区域(国土数値情報) 令和 6(2024)年度、
建物構造(家屋台帳、家屋図) 令和 7(2025)年

○津波浸水想定区域と建物階数の重ね合わせ

・津波浸水想定区域においては、浸水深 2～5m、5～10m と想定される一部区域(志摩磯部駅周辺・鵜方駅周辺・国府・甲賀・浜島・和具など)で、1 階建て・2 階建ての建物が多く分布している。

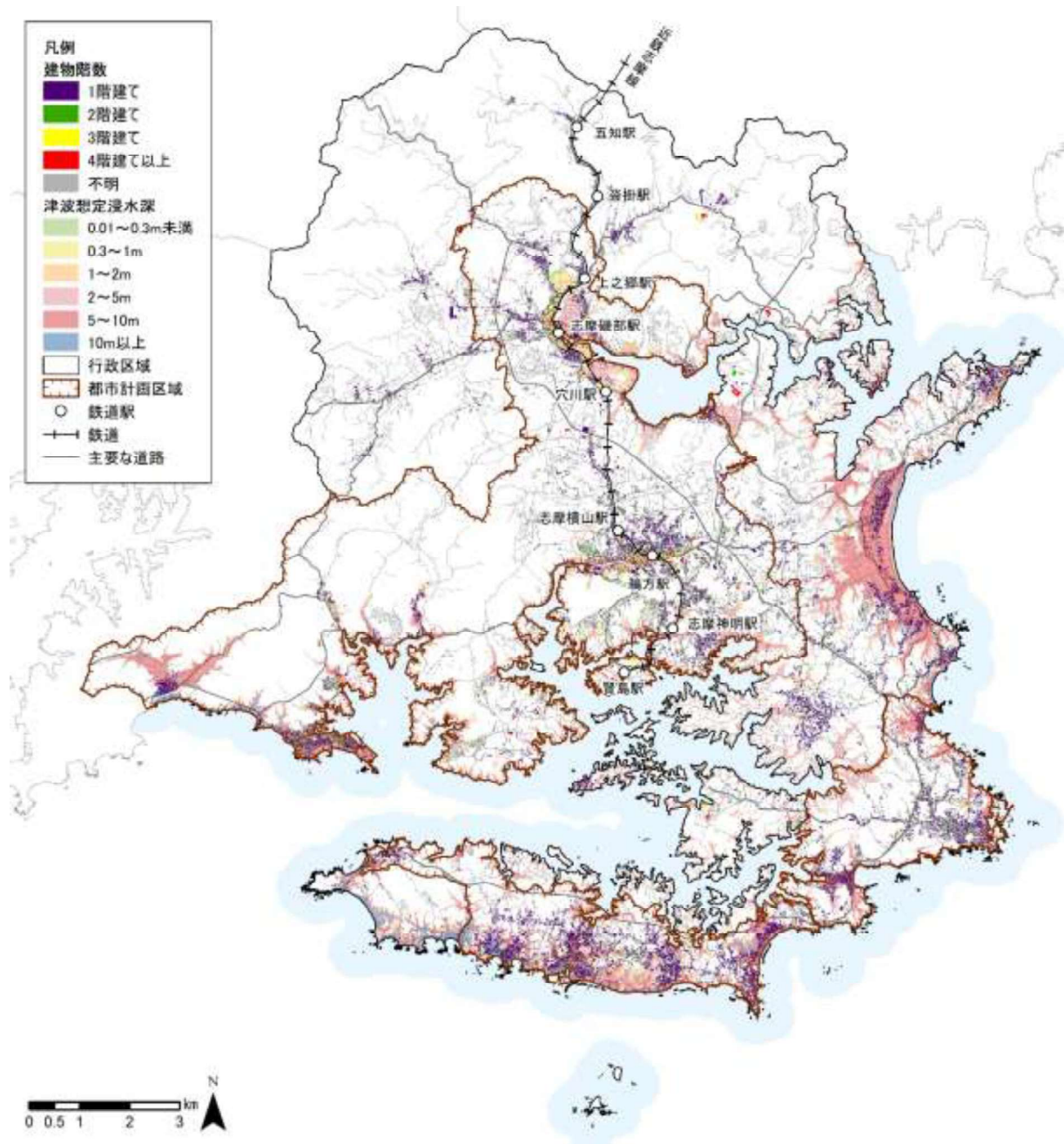


図 津波浸水想定区域(平成25年度地震被害想定調査(三重県)) 平成 25(2013)年、
建物階数(家屋台帳、家屋図) 令和 7(2025)年

1-9. 財政

○歳入/歳出の推移

- ・歳入は令和 2 年度から令和 6 年度まで概ね 28,000 百万円から 31,000 百万円程度で推移している。令和 2 年度は過去 5 年間で最も大きい。
- ・歳出は令和 2 年度から令和 6 年度まで概ね 27,000 百万円から 30,000 百万円程度で推移している。令和 2 年度は過去 5 年間で最も大きい。

一般会計の決算規模の推移(志摩市財政計画 令和 7 年度～令和 11 年度)

【歳入】

(百万円)

項目	R2	R3	R4	R5	R6
市税	5,667	5,508	5,627	5,715	5,537
地方譲与税	178	172	172	173	166
利子割交付金	5	4	2	2	2
配当割交付金	24	37	31	36	34
株式等譲渡所得割交付金	27	40	23	39	29
法人事業税交付金	19	54	91	108	107
地方消費税交付金	1,072	1,153	1,151	1,126	1,150
ゴルフ場利用税交付金	37	44	44	33	28
自動車取得税交付金	20	19	24	28	28
地方特例交付金	38	169	29	29	197
地方交付税	9,568	10,070	9,408	8,999	8,510
交通安全対策特別交付金	4	3	3	2	2
分担金及び負担金	88	285	256	254	272
使用料及び手数料	223	231	258	272	248
国庫支出金	8,226	4,438	4,290	3,783	3,606
県支出金	1,266	1,266	1,383	1,312	1,329
財産収入	22	20	42	23	37
寄附金	458	741	751	1,001	1,621
繰入金	2,325	1,905	1,711	2,196	2,763
繰越金	520	574	946	1,051	693
諸収入	392	449	343	277	366
市債	1,342	1,252	2,170	2,219	1,922
歳入合計	31,521	28,434	28,755	28,678	28,648

※令和 6 年度は 3 月補正後予算額

【歳出】

(百万円)

項目	R2	R3	R4	R5	R6
人件費	4,983	6,117	5,944	5,904	6,520
物件費	3,003	2,810	3,388	3,267	4,111
維持補修費	234	250	266	315	395
扶助費	3,669	4,741	3,903	4,360	4,448
補助費等	9,604	3,466	3,728	3,451	3,625
普通建設事業費	1,011	1,268	2,617	2,641	1,767
災害復旧事業費	4	11	81	5	79
公債費	4,645	4,334	3,885	3,238	2,367
積立金	1,209	1,833	1,273	2,042	2,615
出資金・貸付金	0	0	0	0	0
繰出金	2,585	2,657	2,619	2,745	2,691
予備費	0	0	0	0	30
歳出合計	30,947	27,487	27,704	27,968	28,648

※令和 6 年度は 3 月補正後予算額

○整備年度別公共施設等の分布

- ・建築系公共施設の年度別延べ床面積を見ると、昭和 50 年頃から平成 10 年頃までに集中的に整備されている。
- ・用途別では学校教育系施設、公営住宅、市民文科系施設などが多く、いずれも昭和 50 年ごろから平成 10 年頃にかけて集中的に整備されている。

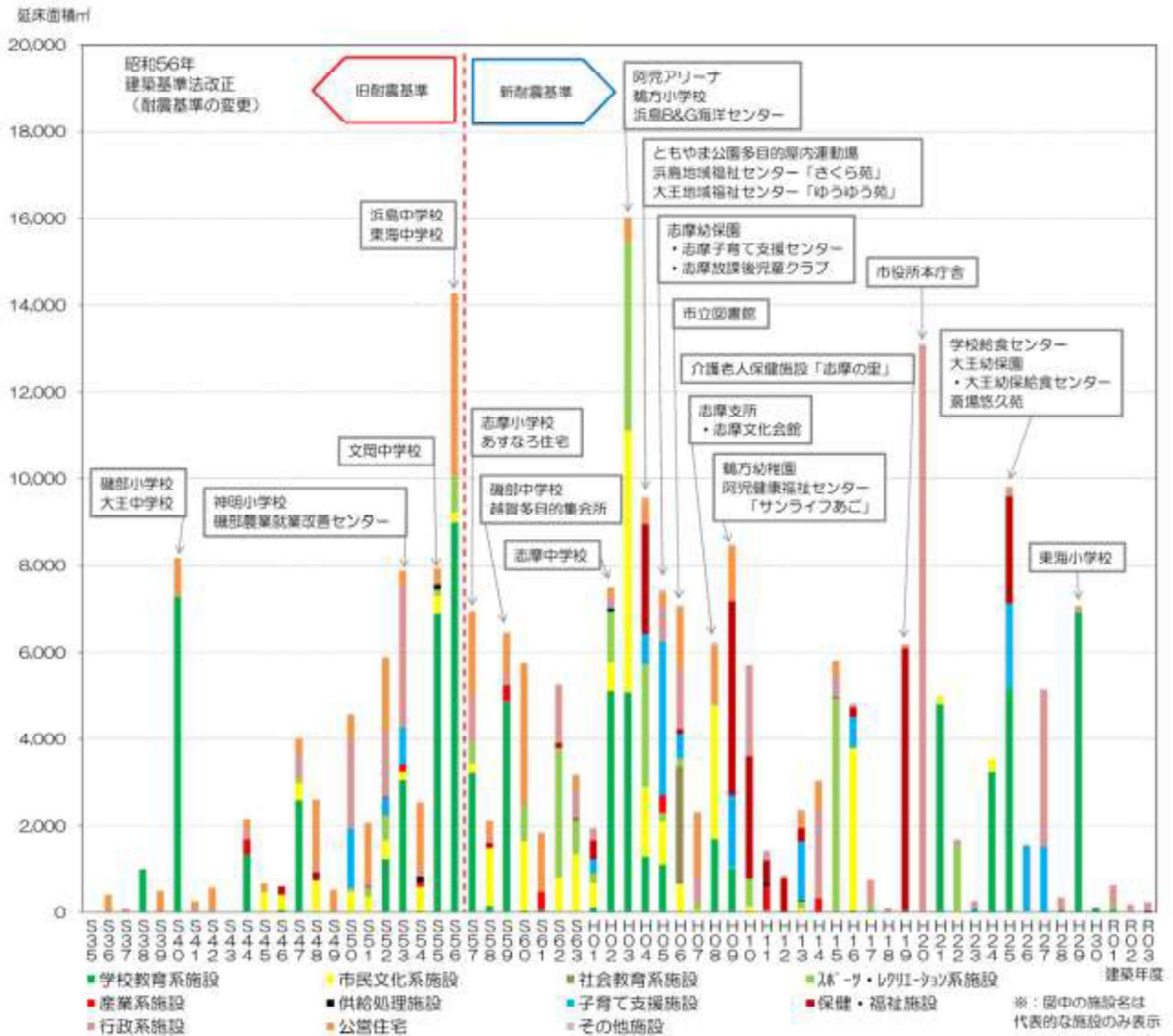


図 建築年代別の公共施設面積(平成 28 年(令和 4 年改訂) 志摩市公共施設等総合管理計画)

○公共施設の将来維持更新コスト

- ・公共建築物の更新にかかる費用は令和 27 年度までで総額約 800 億円、一年あたり平均 32 億円が見込まれている。
- ・一方で令和 3 年度から令和 6 年度までの普通建設事業費の平均は約 16 億円となっており、毎年不足額が発生することが見込まれる。

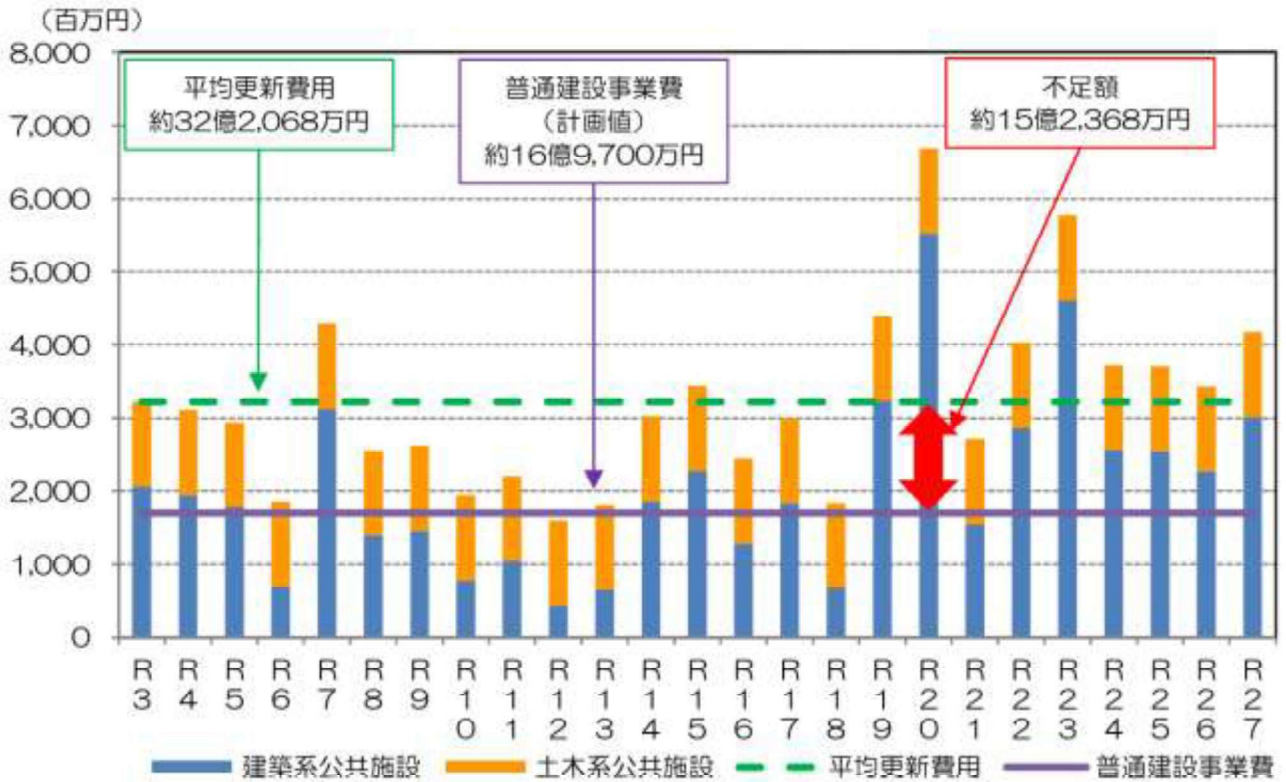


図 公共建築物における今後 30 年間(2045 年:R27 まで)の維持管理・更新にかかる経費
(平成 28 年(令和 4 年改訂) 志摩市公共施設等総合管理計画)

1-10. 主要施策、プロジェクトの動向

・令和 6 年度および令和 7 年度の志摩市重点事業は、防災・減災、人口減少・少子化対策、産業・観光、暮らし、プロモーション等の複数の重点分野に対して実施されている。

表 令和 6 年度志摩市重点事業(市 HP「令和 6 年度当初予算における重点事業について」より抜粋)

重点分野	事業概要	事業例
命を守る防災・減災対策のさらなる加速	南海トラフ地震等の大規模災害に備え、地震・津波対策や避難環境の整備を加速する。あわせて、消防・救助体制や情報伝達体制の強化により、市民の安全・安心を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難対策施設整備事業 ・災害対策用トイレトラック購入事業 ・避難所環境整備事業 など
人口減少・少子化対策の本格化	若者が魅力を感じるしごとの創出や UIJ ターン促進により、定住人口の確保を図る。出会い・結婚から子育て、教育まで切れ目のない支援を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業支援事業 (市内企業デジタル化推進事業委託) ・地域活性化担い手受け入れ推進事業 ・子ども医療費助成事業 など
スタートアップの推進と新たな産業構造への転換	創業・スタートアップ支援や企業誘致を進めるとともに、水産業・農業・観光分野の付加価値向上を図り、新たな産業構造への転換を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・志摩市を元気にする創業支援事業 ・地域ブランド事業(トップセールス事業委託) ・志摩の魚介類付加価値向上事業 など
誰もが安心して暮らせる地域づくりの強化	交通利便性の向上や健康づくり、フレイル対策を通じて、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス運行事業 (デマンド交通実証運行業務) ・健康づくり運動推進事業 ・地域福祉推進事業(地域拠点づくり事業) など
自慢できる新しい志摩市の実現	デジタル技術の活用やシティプロモーションの強化により、市民サービスの向上と地域の魅力発信を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内デジタル化推進事業 (生成 AI 活用実証実験) ・インバウンド誘客促進事業 ・ふるさと応援寄附金事業 など

表 令和 7 年度志摩市重点事業(市 HP「令和 7 年度当初予算における重点事業について」より抜粋)

重点分野	事業概要	事業例
市民の生命と財産を守る強靱な防災・減災対策の推進	「逃げ遅れゼロ」を目指し、津波避難施設や防災物流拠点の整備を進める。あわせて、防災 DX の導入により実効性の高い防災体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難対策施設整備事業 ・防災物流拠点整備事業 ・避難行動要支援者制度事業 など
少子化対策・こども政策の抜本強化	妊娠・出産・子育て支援を拡充するとともに、進学支援や移住促進を通じて、若い世代が安心して暮らせる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦等包括支援事業 ・進学応援金給付事業 ・関係人口創出事業 など
幸せを実感できる心豊かな市民生活の推進	Well-being の実現を重視し、生活支援や健康づくり、福祉サービスの充実を通じて、市民が生涯いきいきと暮らせる地域づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・水道事業会計繰出金(物価高騰対策支援事業) ・地域福祉センター改修事業 ・健康づくり運動推進事業 など
元気で持続可能な観光地域づくり	インバウンド誘客や DMO 機能強化を進め、自然・文化・スポーツを生かした高付加価値型の観光地づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド誘客促進事業 ・DMO 機能強化事業 ・国立公園利用推進事業 など
自慢できる新しい志摩市の実現	観光・産業・DX を連動させたプロモーションを展開し、市の魅力向上と持続的な財源確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・サーフィン活用推進事業 ・地域ブランド事業 (志摩産品監修・プロモーション業務委託) ・ふるさと応援寄附金事業 など

1-11. まとめ

○人口

・総人口は平成 12 年以降減少しており、将来人口推計においても減少傾向が見込まれている。

※p7 図 総人口の推移、p23 図 志摩市及び周辺市町、三重県の将来人口の推移、p25 図 人口密度の変化

・年少人口および生産年齢人口はいずれも減少しており、人口構成の高齢化が進行している。

※p7 図 総人口の推移、p7 図 年齢階層別人口の推移

・平成 27 年以降、自然増減・社会増減のいずれも減少傾向となっており、出生数の減少に加え、転出超過が続いている。

※p17 図 人口流動(自然増減・社会増減)

・通勤・通学による人口流動を見ると、通勤者・通学者ともに流出人口が流入人口を上回っており、市外の職場や学校に通う傾向が一定程度みられる。

※p18 図 流出入人口、p19 表 流入人口、p19 表 流出人口

➡定住人口の自然増加・社会増加のみによって人口規模を維持することには限界があると考えられ、交流人口や関係人口も含め、人口減少を前提とした都市構造のあり方が求められる。

○土地利用

・市街地は鵜方駅・志摩磯部駅周辺および沿岸部の集落に点在して形成されており、全体として低密度かつ分散的な土地利用となっている。

※p31 図 土地利用現況図

・市役所本庁舎や各支所周辺、沿岸部を中心に、空き家が一定数分布している。

※p50 図 空き家分布状況

➡今後、人口減少の進行に伴い、低未利用地や空き家の増加がさらに進むことで、住環境や景観の悪化、都市機能の維持が困難となるおそれがある。

○都市施設

・鉄道は近鉄志摩線が市内を縦断し、特急停車駅である鵜方駅・志摩磯部駅などが主要な交通拠点となっている。公共交通のカバー率は 7 割弱にとどまっており、市内には一部交通空白地がみられる。

※p53 表 公共交通機関 徒歩圏カバー人口、p53～54 図 志摩市の鉄道・路線バス交通網と公共交通徒歩圏域

・通勤・通学における交通手段は自家用車が約 8 割を占めている。

※p60 図 通勤・通学における交通分担率

➡将来においても公共交通のカバー率自体は大きく変化しないものの、徒歩圏内人口密度の低下が進むことから、路線やサービス水準の維持が困難になるとともに、自動車を利用できない高齢者など交通弱者の移動手段の確保が問題となる。

○都市機能

・商業施設、医療施設、福祉施設など都市機能施設は、市役所本庁舎や各支所周辺、国道沿道を中心に一定程度集積して立地している。一方、一部の地域では、都市機能施設の立地が限られており、日常生活における移動負担が大きい。

※p64～p87 図 都市機能施設分布状況、徒歩圏カバー人口

➡今後の人口減少に伴い、特に人口規模の小さい地域では都市機能の撤退や縮小が生じるおそれがある。

○経済活動

・就業者数は減少傾向にあり、特に、一次産業である農業・漁業では、高齢化率が50%前後と、他産業と比べても高齢化がより顕著な状況にある。

※p88 表 志摩市における事業所数と従業者数の推移、p88 図 志摩市における産業別高齢化率

・観光入込客数はコロナ禍以降、一定程度回復しつつある。

※p93 表 志摩市の観光入込客数の推移(千人)

➡観光需要はコロナ禍以降回復傾向にあるものの、地域経済を支える担い手の減少や高齢化が進行しており、産業自体の弱体化が進行している。

○災害

・津波想定浸水深は、沿岸部や湾奥、河口低地を中心に広く分布しており、局所的には5～10m以上の深い浸水が想定される区域も見られる。

※p110 図 津波浸水想定区域

・津波想定浸水深の大きいエリアには津波避難施設が設置されており、市域全体に一定程度、避難施設が整備されているものの、地震発生時には「極めて高い」液状化危険度が想定されている。

※p112 図 液状化危険度分布図、p113 図 志摩市避難所

➡津波・地震・液状化など複合的な災害リスクにより、居住地や都市機能、避難施設・避難経路の安全性が十分に確保できないおそれがある。

○財政

・令和2年度の歳入は過去10年間で最も大きい金額となっているものの、市税は近年減少傾向である。

※p145～146 図 一般会計の決算規模の推移(歳入、歳出)

・公共施設やインフラの維持更新費用は今後も必要となる見込みである。

※p148 図 公共建築物における今後30年間(2045年:R27まで)の維持管理・更新にかかる経費

➡今後、人口減少が見込まれる中、現状と同規模の公共施設や行政サービスを維持していくことは財政的に困難となるおそれがある。